



613-000243 Rev.B 070302

CentreCOM RG601TX-SP/RG601TX アドミニストレーターマニュアル

アライドテレシス株式会社

安全のために

必ずお守りください

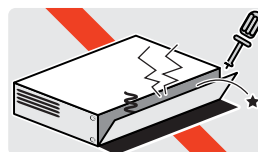


警告

下記の注意事項を守らないと火災・感電により、死亡や大けがの原因となります。

分解や改造をしない

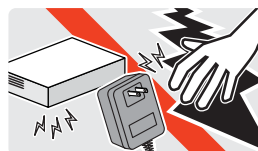
本製品は、取扱説明書に記載のない分解や改造はしないでください。火災や感電、けがの原因となります。



分解禁止

雷のときはケーブル類・機器類にさわらない

感電の原因となります。



雷のときはさわらない

異物はいれない 水は禁物

火災や感電の恐れがあります。水や異物を入れないように注意してください。万一水や異物が入った場合は、電源プラグをコンセントから抜いてください。



異物厳禁

通風口はふさがない

内部に熱がこもり、火災の原因となります。



ふさがない

湿気やほこりの多いところ、油煙や湯気のあたる場所には置かない

内部回路のショートの原因になり、火災や感電の恐れがあります。



設置場所注意

表示以外の電圧では使用しない

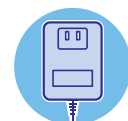
本製品に付属のACアダプターは100~240Vで動作します。



電圧注意

付属のACアダプター以外で使用しない

火災や感電の原因となります。必ず、付属のACアダプターを使用してください。



付属品を
使え

コンセントや配線器具の定格を超える使い方はしない

たこ足配線などで定格を超えると発熱による火災の原因となります。



たこ足禁止

設置・移動のときは電源プラグを抜く

感電の原因となります。



プラグを
抜け

ACアダプターのコードを傷つけない

火災や感電の原因となります。



傷つけない

ご使用にあたってのお願い

次のような場所での使用や保管はしないでください。

- ・直射日光の当たる場所
- ・暖房器具の近くなどの高温になる場所
- ・急激な温度変化のある場所（結露するような場所）
- ・湿気が多い場所や、水などの液体がかかる場所（湿度80%以下の環境でご使用ください）
- ・振動の激しい場所
- ・ほこりの多い場所や、シュータンを敷いた場所（静電気障害の原因になります）
- ・腐食性ガスの発生する場所



静電気注意

本製品は、静電気に敏感な部品を使用しています。部品が静電破壊する恐れがありますので、コネクタの接点部分、ポート、部品などに素手で触れないでください。



取り扱いはていねいに

落としたり、ぶつけたり、強いショックを与えないでください。



お手入れについて

清掃するときは電源を切った状態で

誤動作の原因になります。



機器は、乾いた柔らかい布で拭く

汚れがひどい場合は、柔らかい布に薄めた台所用洗剤（中性）をしみこませ、強く絞ったものでふき、乾いた柔らかい布で仕上げてください。



ぬらすな



中性洗剤
使用



強く絞る

お手入れには次のものは使わないでください

・石油・みがき粉・シンナー・ベンジン・ワックス・熱湯・粉せっけん
（化学ぞうきんをご使用のときは、その注意書に従ってください。）



シンナー
類不可

0 はじめに

この度は、CentreCOM RG601TX-SP/RG601TX をご購入いただき、誠にありがとうございます。

CentreCOM RG601TX-SP は、VoIP ゲートウェイ、告知放送、ブロードバンドルーターの 3 つの機能を搭載したレジデンシャル・ゲートウェイです。この 1 台で、IP 電話サービス、インターネットへの接続サービス、IP ブロードキャストによる一斉同報配信サービスの提供が可能です。CentreCOM RG601TX は、VoIP ゲートウェイ、ブロードバンドルーターの 2 つの機能を搭載し、告知放送の機能を持たないモデルです。

0.1 最新のファームウェアについて

弊社は、改良のために、予告なく本製品のファームウェアのバージョンアップを行うことがあります。最新のファームウェアは弊社 Web ページから入手してください。なお、最新のファームウェアのご利用の際には、弊社 Web ページに掲載されているリリースノートの内容をご確認ください。

<http://www.allied-telesis.co.jp/>

0.2 マニュアルの構成

本製品のマニュアルは次の 3 冊で構成されています。

アドミニストレーターマニュアル（本書）

本製品の設置業者や管理者を対象にしたマニュアルです。

本書は、機能の概要、各部の名称とはたらき、設置や配線の方法、設定の準備、WAN に接続する設定、IP 電話の設定、告知放送の設定、設定内容のバックアップやリストア、本製品の初期化、ファームウェアの更新、現在の状態の確認方法が記載されています。

本書は、弊社 Web ページにて提供いたします（印刷物として、本製品に付属していません）。

<http://www.allied-telesis.co.jp/>

リリースノート

ユーザーマニュアル、アドミニストレーターマニュアルの補足や訂正、最新のファームウェアを使用する際の注意点など、現時点における最新の情報を記載した文書です。弊社 Web ページにて提供いたします（印刷物として、本製品に付属していません。また、リリースノートが発行されていないこともあります）。

<http://www.allied-telesis.co.jp/>

ユーザーマニュアル

本製品を使用するユーザーを対象としたマニュアルです。

このマニュアルには、パッケージの内容、特長、各部の名称とはたらき、設置や配線の方法、電話機の使い方、告知放送機能の使い方、仕様が記載されています。

このマニュアルは、本製品のパッケージに印刷物として付属しています。

0.3 表記について

アイコン

このマニュアルで使用しているアイコンには、次のような意味があります。





アイコン	意味	説明
 ヒント	ヒント	知っていると便利な情報、操作の手助けになる情報を示しています。
 注意	注意	物的損害や使用者が傷害を負うことが想定される内容を示しています。
 警告	警告	使用者が死亡または重傷を負うことが想定される内容を示しています。
 参照	参照	関連する情報が書かれているところを示しています。

図 0.3.1 アイコン

製品名

「本製品」と表記している場合は、CentreCOM RG601TX-SP または CentreCOM RG601TX に共通する項目を意味します。

「RG601TX-SP」または「RG601TX」のように表記している場合は、「RG601TX-SP」または「RG601TX」に特化した項目を意味します。

略語

「インターネット・サービス・プロバイダー」を「ISP」と略します。

「公衆交換電話網」を「PSTN」と略します。

目次

0 はじめに	4
0.1 最新のファームウェアについて	4
0.2 マニュアルの構成	4
0.3 表記について	5
1 機能の概要	8
2 各部の名称とはたらき	10
3 設定の流れ	13
4 設置	14
4.1 設置するときの注意	14
4.2 壁への取り付け	15
5 接続	16
6 設定のための基本的操作	18
6.1 設定のユーザーインターフェース	18
6.2 設定環境	18
6.3 ログイン（設定の開始）	18
6.4 設定画面の構成とボタンのはたらき	19
メニューフレームの内容	20
ボタンのはたらき	21
6.5 設定内容の保存と動作への反映（設定の終了）	23
6.6 ログアウト	23
7 WAN に接続するための設定（基本設定）	24
7.1 接続モード	24
7.2 WAN 0:DHCP/ 固定 IP 設定	26
IP アドレスの固定設定	26
DHCP による IP アドレス取得	27
7.3 WAN 1-WAN 2: PPPoE 1-PPPoE 2 configuration	28
B フレッツへの接続	28
7.4 Remote Access Setting	30
WAN 側からの Web アクセスを許可する	30
WAN 側からの Web アクセスを禁止する	30
WAN 側からの TELNET によるログインを許可する	30
WAN 側からの TELNET によるログインを禁止する	30
8 IP 電話の設定	31
8.1 IP 電話基本設定	32
8.2 IP 電話詳細設定	33
8.3 発信ルーティング設定	34
エントリー内容の変更	35
エントリー内容の削除	35
8.4 Peer to Peer の設定	36
エントリー内容の削除	37
8.5 高度な設定 1	38
8.6 高度な設定 2	38
9 告知放送の設定（詳細設定、RG601TX-SP のみ）	40
9.1 IP 告知放送概要	40
9.2 IP 告知放送設定パラメーター	41
放送が衝突したときの動作	42
10 LAN 側設定（詳細設定）	43
11 静的ルーティング設定（詳細設定）	45
エントリー内容の変更	46
エントリー内容の削除	47

12	メンテナンス.....	48
12.1	管理者パスワードの変更.....	48
12.2	時刻の設定.....	49
12.3	設定内容のバックアップとリストア.....	51
	設定内容のバックアップ.....	51
	設定内容のリストア.....	52
12.4	工場出荷時設定に戻す（設定値の初期化）.....	54
12.5	ファームウェアの更新.....	55
	現在のファームウェアバージョンの確認.....	55
	更新の手順.....	55
12.6	システムログの表示.....	57
13	情報.....	58
13.1	現在の状態（PPPoE）.....	58
13.2	現在の状態（固定 IP/DHCP）.....	58
13.3	電話の状態と状態変更.....	59
13.4	ルーティングテーブルの状態.....	59
14	トラブルシューティング.....	60
A	付録.....	61
A.1	コンピューターの設定（Windows XP）.....	61
A.2	JavaScript の有効化.....	63
	ご注意.....	65
	商標について.....	65
	電波障害自主規制について.....	65
	廃棄方法について.....	65
	日本国外での使用について.....	65
	マニュアルバージョン.....	65

1 機能の概要

CentreCOM RG601TX-SP は、VoIP ゲートウェイ、告知放送、ブロードバンドルーターの 3 つの機能を搭載したレジデンシャル・ゲートウェイです。この 1 台で、IP 電話サービス、インターネットへの接続サービス、IP ブロードキャストによる一斉同報配信サービスの提供が可能です。

CentreCOM RG601TX は、VoIP ゲートウェイ、ブロードバンドルーターの 2 つの機能を搭載し、告知放送の機能を持たないモデルです。

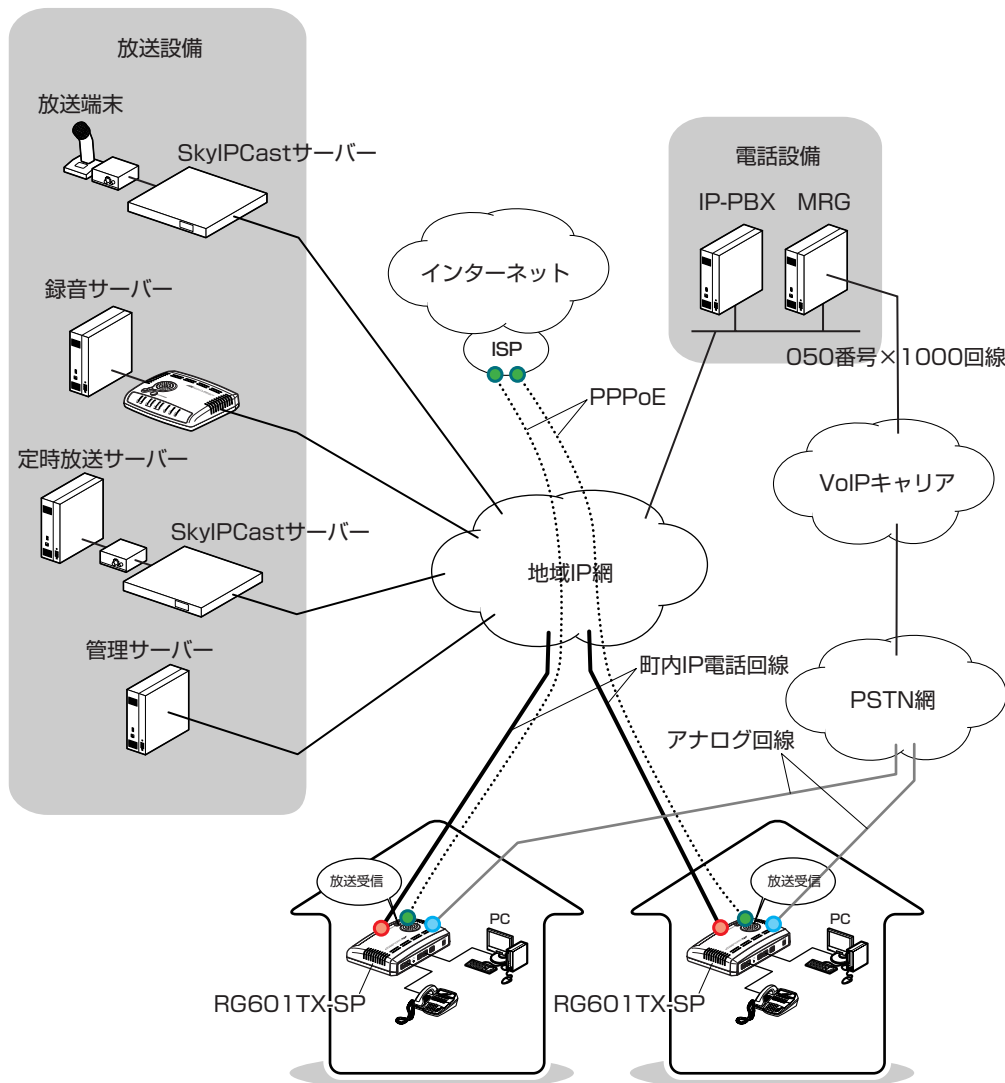


図 1.0.1 RG601TX-SP のネットワーク構成例

接続モード

次の 2 つの接続モードにより、様々なネットワーク構成や運用形態への柔軟な対応ができます。

- ブリッジ (Mode 1)
放送と VoIP はイーサネット接続。WAN、LAN 間はブリッジとして動作。
- ハイブリッド (Mode 2)
放送と VoIP はイーサネット接続。インターネットへは PPPoE で接続し、ルーターとして動作。

電話機能

IP 回線と一般加入電話回線の併用をスムーズにする、様々な電話機能を備えています。

- 発信ルーティングテーブル一般加入電話回線を使用する電話番号の静的登録 (ワイルドカード可)。
- IP/一般加入電話回線自動迂回機能相手の電話番号が照会できない場合、自動的に一般加入電話回線に迂回。
- IP/一般加入電話回線間疑似キャッチホン機能いずれかの回線で通話中にもう一方の回線から着信があった場合、着信を通知。通話はフッキングで切替。

ライフライン機能

停電時は、LINE ポートに接続したアナログ回線を利用する通話が可能です。

IP マルチキャスト告知放送の再生^{*1}

IP マルチキャストで配信された告知放送の音声データは内蔵のスピーカーで再生されます。告知放送は、電話による通話状況に関わらず再生されます。また、外部スピーカー端子により、外部スピーカーの接続ができます。

緊急時の告知放送の再生^{*2}

告知放送の優先度（高 / 低）に対応しています。緊急時などで優先度高の告知放送を受信すると、本体の音量設定に関わらず、一定の音量で再生することができます。

放送受信確認^{*3}

必要に応じて放送受信確認ボタンを点滅させることができます。また、放送受信確認ボタンを押すことで、HTTP によるイベント通知ができます。

Web ブラウザーによる設定

Web ブラウザーによる設定や管理ができます。

*1 RG601TX-SP のみを持つ機能です。スカイウェイブ社の各種サーバーが必要です。

*2 同上。

*3 同上。

2 各部の名称とはたらき

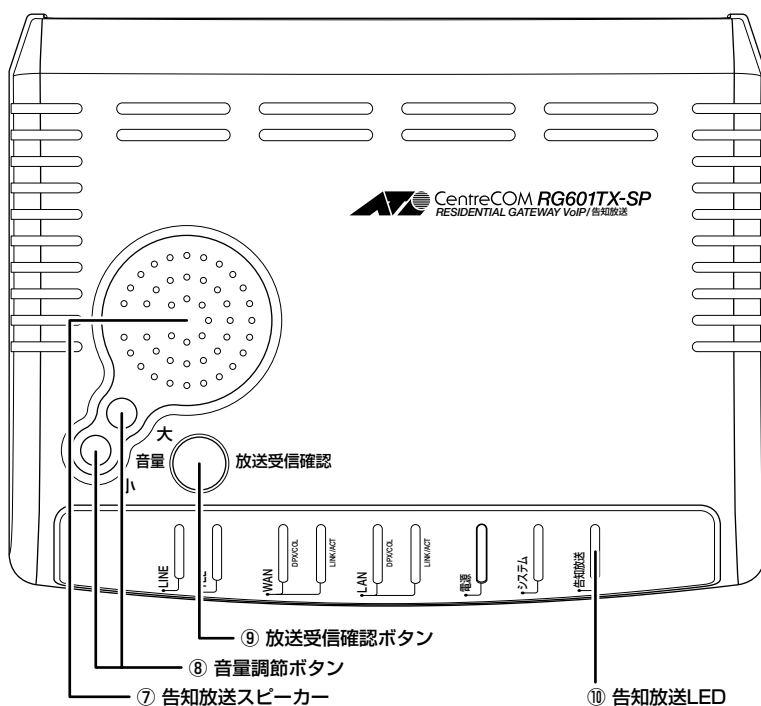


図 2.0.1 RG601TX-SP 上面

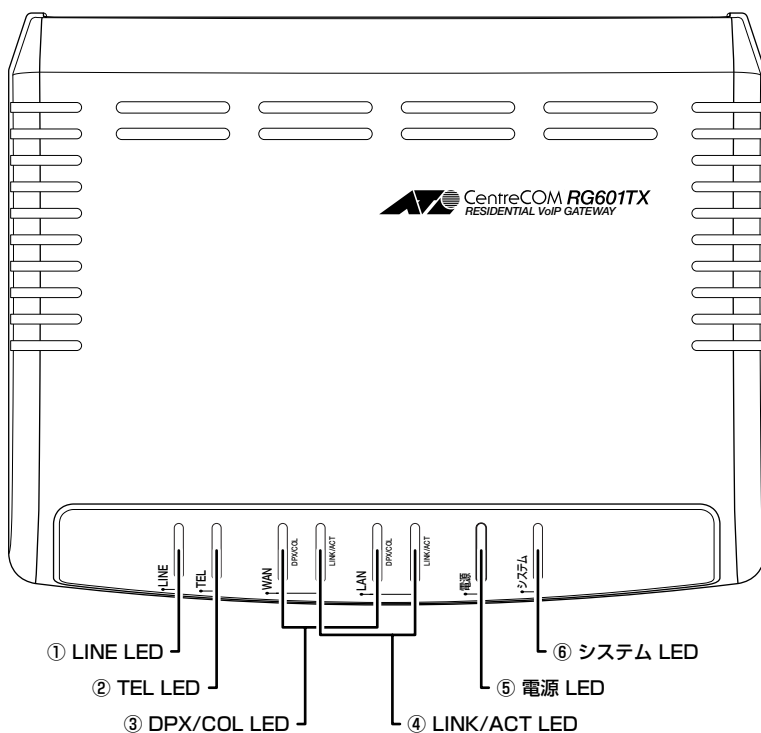


図 2.0.2 RG601TX 上面

① LINE LED

LED	色	状態	表示内容
LINE	緑	点灯	一般加入回線で通話中です。
		消灯	一般加入回線で通話していません。(IP回線による通話では点灯しません。)

② TEL LED

LED	色	状態	表示内容
TEL	緑	点灯	IP 回線を使用する通話が可能です。
		点滅	電話機の受話器が上がっているか、または通話中です。通話を着信したとき、呼び出し音に合わせて点滅します。
		消灯	IP 回線を使用する通話できません。

③ DPX/COL LED

LED	色	状態	表示内容
DPX/COL	緑	点灯	Full Duplex でリンクが確立しています。
		点滅	コリジョンが発生しています。
		消灯	Full Duplex でリンクが確立していません。(Half Duplex でリンクが確立していません。)

④ LINK/ACT LED

LED	色	状態	表示内容
LINK/ACT	緑	点灯	100Mbps でリンクが確立しています。
		点滅	100Mbps でパケットを送受信しています。
	橙	点灯	10Mbps でリンクが確立しています。
		点滅	10Mbps でパケットを送受信しています。
	一	消灯	リンクが確立していません。

⑤ 電源 LED

LED	色	状態	表示内容
電源	緑	点灯	電源が供給されています。
		消灯	電源が供給されていません。

⑥ システム LED

LED	色	状態	表示内容
システム	橙	点灯	異常が発生しています。(起動時の一時的な点灯は正常な動作です。)
		消灯	正常に動作しています。

⑦ 告知放送スピーカー

告知放送を受信した場合、このスピーカーから放送されます。RG601TX-SP のみ。

⑧ 音量調節ボタン (大・小)

告知放送の音の大きさを調節します。RG601TX-SP のみ。

⑨ 放送受信確認ボタン

告知放送を聞いたことを、放送者に知らせるためのボタンです。聴取者が告知放送を聞いたことを放送者に通知する必要がある場合、このボタンが橙色で点滅します(放送予告メッセージに「放送受信確認イベント有」が含まれていると、このボタンが点滅します)。RG601TX-SP のみ。

⑩ 告知放送 LED

RG601TX-SP のみ。

LED	色	状態	表示内容
告知放送	橙	点滅	告知放送が放送されています。
		消灯	告知放送が放送されていません。

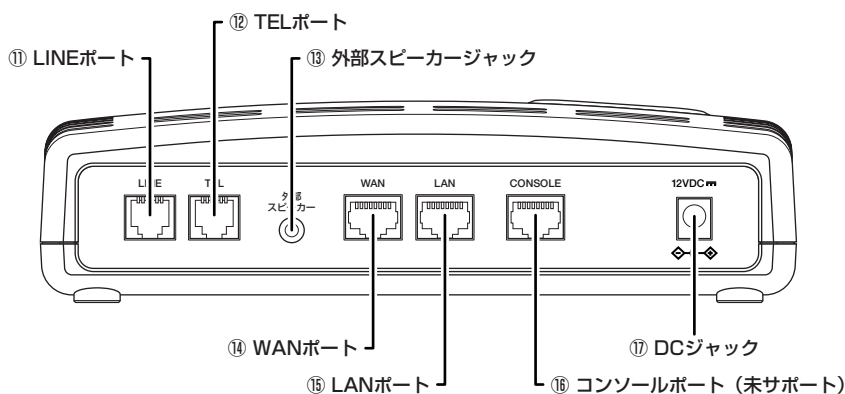


図 2.0.3 RG601TX-SP 背面

⑪ LINE ポート (FXO)

一般加入回線に接続するポートです (RJ-11)。

⑫ TEL ポート (FXS)

電話機を接続するポートです (RJ-11)。

⑬ 外部スピーカージャック

外部スピーカー (アンプ付) を接続するジャックです (φ3.2mm モノラルミニジャック)。RG601TX-SP のみ。外部スピーカーは付属しておりません。別途ご用意ください。

⑭ WAN ポート

WAN に接続するポートです (RJ-45)。オートネゴシエーション (Auto-Negotiation)、MDI/MDI-X 自動切替により、接続された機器に応じて適切なモードで動作します。

⑮ LAN ポート

コンピューターなどを接続する LAN 側のポートです (RJ-45)。オートネゴシエーション (Auto-Negotiation)、MDI/MDI-X 自動切替により、接続された機器に応じて適切なモードで動作します。

⑯ コンソールポート

弊社メンテナンス用です (お客様はご使用になれません)。


⑰ DC ジャック

本製品に付属の AC アダプターの DC プラグを接続するジャックです。本製品には電源スイッチがありません。本製品の起動と停止は、アダプターの AC プラグを電源コンセントに抜き差しすることでおこないます。


3 設定の流れ

本製品を設置し、運用を開始するまでの基本的な作業の流れは下記のとおりです。


- 1 本製品を WAN、PSTN、電話機、コンピューターに接続します。
本製品に AC アダプターを接続し、本製品が起動すると、電源、WAN、LAN の LED が点灯します (WAN、LAN ポートの接続機器に電源が入っている必要があります)。

 「5 接続」 (p.16)
「A.1 コンピューターの設定 (Windows XP)」 (p.61)


- 2 Web ブラウザーを使用して本製品にログインします。

 「6 設定のための基本的操作」 (p.18)
「A.2 JavaScript の有効化」 (p.63)


- 3 WAN に接続するための設定 (DHCP クライアント、PPPoE など) を行います。
必要であれば、静的ルーティングの設定を行います。

 「7 WAN に接続するための設定 (基本設定)」 (p.24)
「11 静的ルーティング設定 (詳細設定)」 (p.45)


- 4 IP 電話を利用するための設定を行います。
IP 電話の設定を終えると、IP 電話の電話番号が SIP サーバーに登録され、本製品の TEL LED が点灯します。

 「8 IP 電話の設定」 (p.31)

- 5 IP 告知放送に関する設定を行います (RG601TX-SP のみ)。

 「9 告知放送の設定 (詳細設定、RG601TX-SP のみ)」 (p.40)

- 6 管理、保守を行います。

 「12 メンテナンス」 (p.48)
「13 情報」 (p.58)

4 設置

4.1 設置するときの注意

本製品の設置や保守を始める前に、必ず「安全のために」をよくお読みください。
設置場所については、下記にご注意ください。

- 直射日光のあたる場所、多湿な場所、ほこりの多い場所に設置しないでください。
- 傾いた場所や不安定な場所に設置しないでください。
- 十分な換気ができるように、本体側面、および背面をふさがないように設置してください。
- テレビ、ラジオ、無線機、携帯電話などのそばに設置しないでください。
- ケーブルに無理な力が加わるような配置はさけてください。
- 本体の上に物を置かないでください。
- 本製品は屋外ではご利用になれません。
- コネクターの端子にさわらないでください。静電気を帯びた手（体）でコネクターの端子に触れると、静電気の放電により故障の原因となります。

また、壁面に取り付ける場合には、以下の点にご注意ください。

- 高所に取り付ける際には、特に注意して、確実に壁に固定してください。固定が不十分な場合、落下によるけがや、本製品が破損するおそれがあります。
- 取り付け面の状態によっては、十分な取り付け強度を得られないことがあります。機器およびケーブルの重みによって本製品が落下しないよう、確実に取り付け・設置をおこなってください。けがや本製品の破損の原因になることがあります。
- 振動・衝撃の多い場所や不安定な場所には設置しないでください。落下によるけがや、本製品の故障の原因になることがあります。
- 取り付け面によっては、本製品設置の際に、被着面の塗装などに傷が付く場合があります。

4.2 壁への取り付け

壁面への取り付けは、以下の手順で行ってください。



壁面の構造に合わせて、適切な壁面への取り付け工事をおこなってください。不適切な工事をおこなった場合、落下の原因となり危険です。専門の知識を持った工事業者に依頼することをお勧めいたします。

- 以下の点を考慮して、本製品を設置する場所を決めてください。
 - UTP ケーブルおよび AC アダプターの接続が可能であること。
 - 本体の LED を下側に向けて表示が監視できること。
- 2 設置場所に木ネジを 2 つ取り付けます（本製品には木ネジは付属しておりませんので、別途ご用意ください）。ネジの間隔は横 60mm です。取り付け面から木ネジの頭が 5mm ほど出たところまで木ネジを埋め込みます。

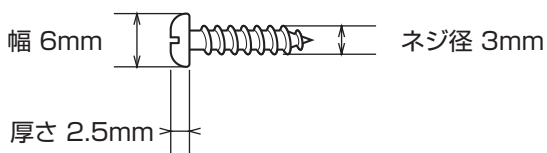


図 4.2.1 木ネジの仕様

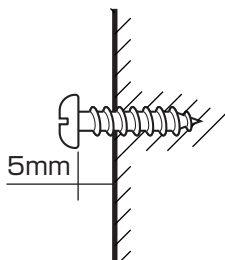


図 4.2.2 木ネジの飛び出し寸法

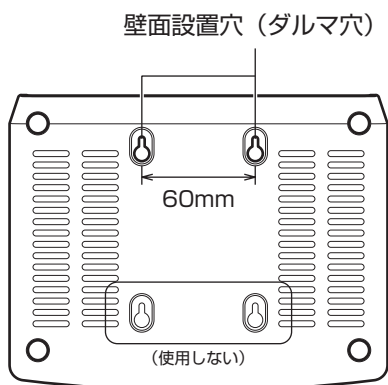


図 4.2.3 壁面設置穴の間隔

- 3 本製品底面のダルマ穴の上 2 つを、木ネジの頭に通し、細い部分までずらして固定してください。

5 接続

- 1 本製品の TEL ポートに電話機を接続してください。

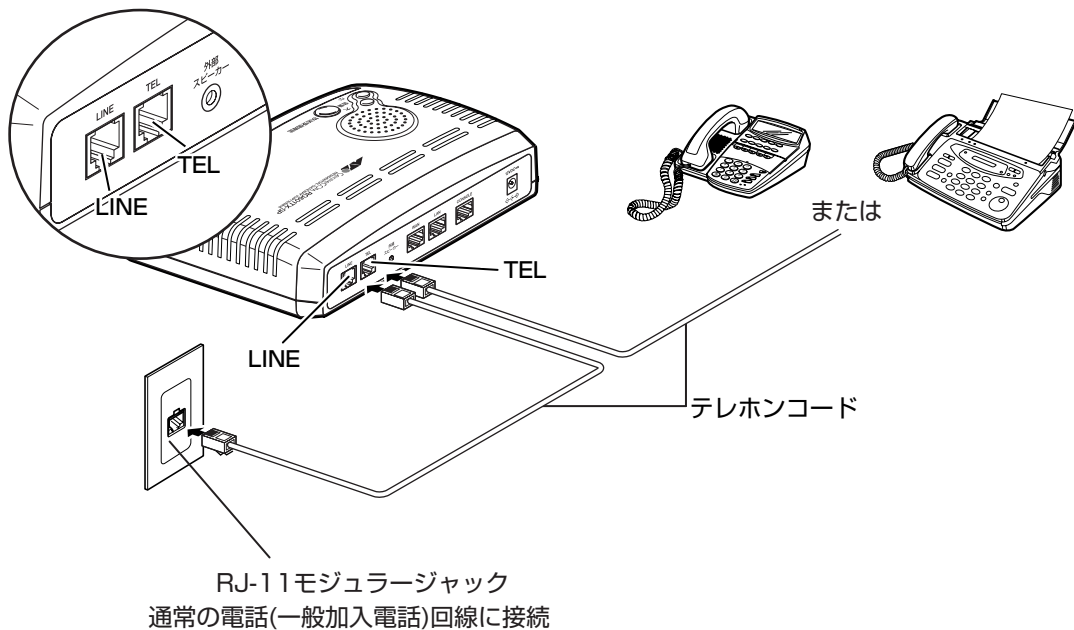


図 5.0.1 電話機と一般加入回線の接続

- 2 本製品の LINE ポートを一般加入回線に接続してください。接続用のテレホンケーブルは、本製品に付属しています。
- 3 本製品の LAN ポートにコンピューターを接続してください。本製品の LAN ポートは、オートネゴシエーション、MDI/MDI-X 自動切替の機能を持っているので、接続された機器に応じて適切なモードで動作します。LAN ポートに複数のコンピューターを接続する場合は、スイッチを介して接続してください。

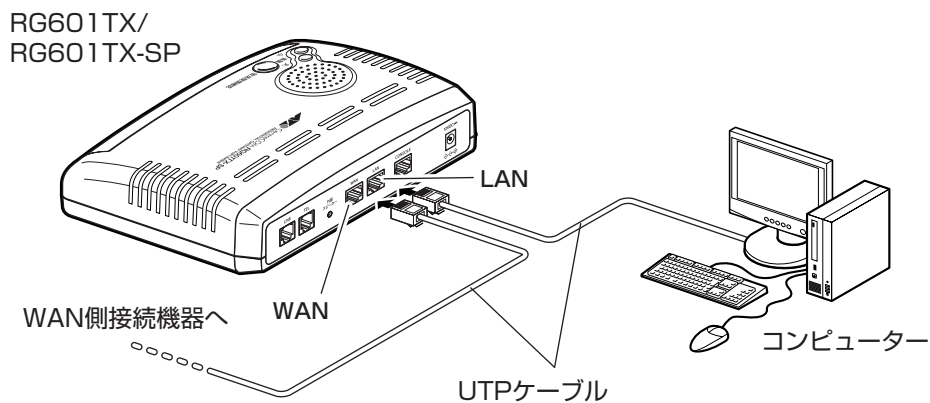



図 5.0.2 WAN、LAN の接続

- 4 本製品の WAN ポートを WAN 側の接続用機器 (ONU、ADSL モデム、ケーブルモデムなど) に接続してください。本製品の WAN ポートは、オートネゴシエーション、MDI/MDI-X 自動切替の機能を持っているので、接続された機器に応じて適切なモードで動作します。

- 5 ACアダプターのDCプラグを、本製品のDCジャックに接続してください。ACアダプターのACプラグをACコンセントに接続してください。本製品は、電源スイッチを持っていないので、ACアダプターをACコンセントに接続するとただちに電源が入ります。

システムLED、放送受信確認ボタン（RG601TX-SPのみ）、告知放送LED（RG601TX-SPのみ）が一瞬点灯し、電源、WAN、LANのLEDが点灯することを確認してください。

 「2 各部の名称とはたらき」(p.10)

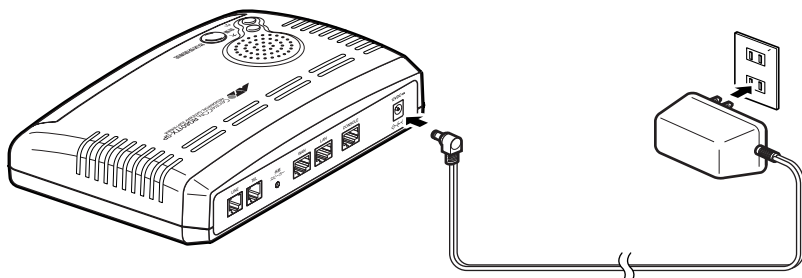


図 5.0.3 ACアダプターの接続



警告

本製品をAC200Vで使用する場合は、設置業者にご相談ください。不適切な電源ケーブルや電源コンセントを使用すると、発熱による発火や感電の恐れがあります。



注意

電源をオフしてから再度オンにする場合は、しばらく間をあけてください。

- 6 ほこり、異物の混入を防ぐため使用しないポートには、必ず付属のダストカバーを取り付けてください。



図 5.0.4 ダストカバー

6 設定のための基本的操作

6.1 設定のユーザーインターフェース

本製品は、Web ブラウザーを使用して設定を行います。

6.2 設定環境

Web ブラウザーとして Microsoft Internet Explorer Version 6 以上をご使用ください。

本製品の GUI は、JavaScript を使用しますので、JavaScript を無効化している場合は、「A.2 JavaScript の有効化」(p.63) に従って有効化してください。

6.3 ログイン (設定の開始)

- 1 本製品の LAN ポートにコンピューターを接続してください。
- 2 本製品、コンピューターの電源をオンにしてください*4。
コンピューターで Web ブラウザーを実行してください。
- 3 Web ブラウザーのアドレス欄に、「http://192.168.1.1/」を入力してください。
次の画面 (ページ) が表示されたら、「管理画面にログインします」をクリックしてください。



図 6.3.1 ログイン画面

*4 本製品の LAN ポート側では、DHCP サーバーが実行されています。

- 4 ログインダイアログボックスが現れます。「ユーザー名」として「manager」、「パスワード」として「friend」を入力し、「OK」ボタンをクリックしてください。



図 6.3.2 ユーザー名、パスワードの入力

- 5 設定画面が表示されます。

6.4 設定画面の構成とボタンのはたらき

ログインに成功すると、最初に次の画面（ページ）が表示されます。

各設定ページは、メニューフレームと、操作フレームに分かれています。

メニューフレームから各メニューをクリックすると、操作フレームに設定ページが表示されます。

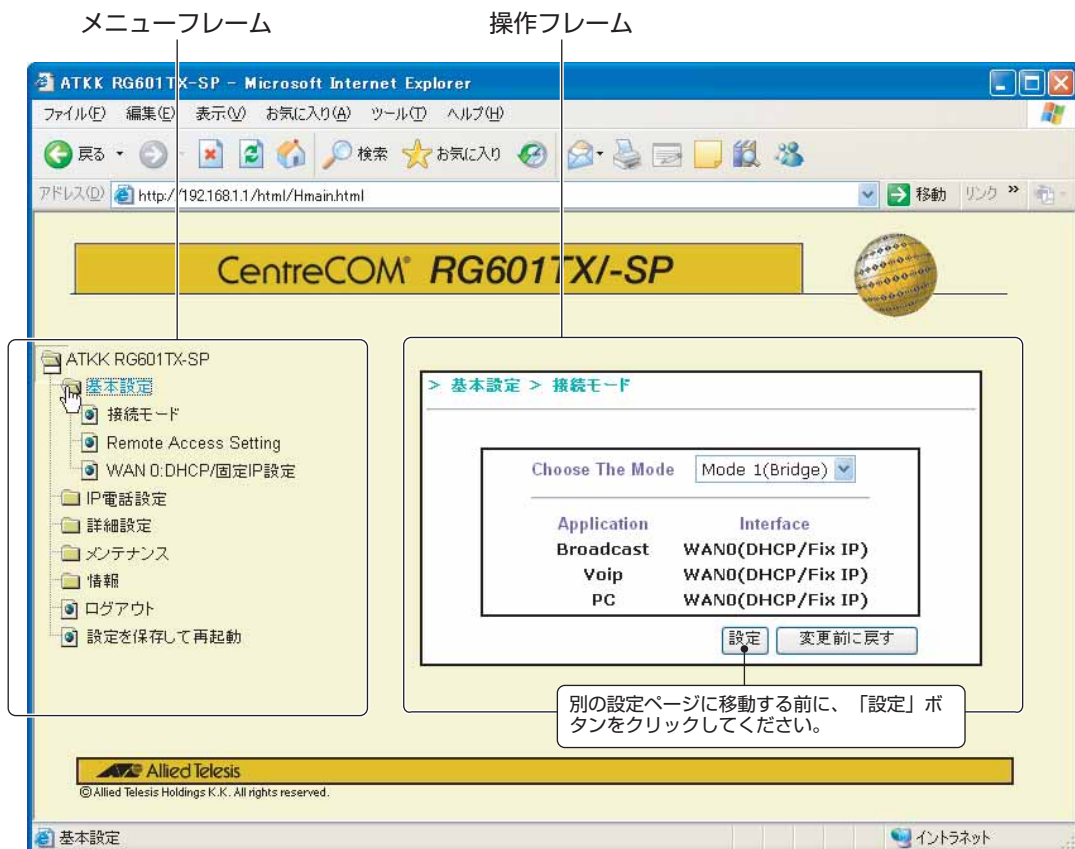


図 6.4.1 ログイン直後の画面（工場出荷時設定）

メニューフレームの内容

メニュー項目のフォルダーアイコンをクリックすると、項目の下の階層のメニュー項目が表示されます。

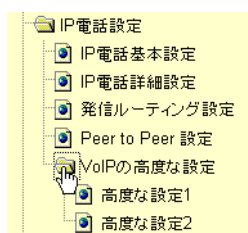


図 6.4.2 メニュー項目のフォルダーを開く

メニューフレームには、下記の項目が存在します。「WAN 1-WAN 2: PPPoE 1-PPPoE 2 configuration」は、「接続モード」で「Mode 2」または「Mode 3」（未サポート）を選択したときのみ表示されます。

- ATKK RG601TX-SP
 - 基本設定
 - 接続モード
 - Remote Access Setting
 - WAN 0:DHCP/ 固定 IP 設定
 - WAN 1-WAN 2: PPPoE 1-PPPoE 2 configuration
 - IP 電話設定
 - IP 電話基本設定
 - IP 電話詳細設定
 - 発信ルーティング設定
 - Peer to Peer 設定
 - VoIP の高度な設定
 - 高度な設定 1
 - 高度な設定 2
 - 詳細設定
 - 告知放送設定
 - LAN 側設定
 - ファイアウォール設定（未サポート）
 - Virtual Server setting（未サポート）
 - Dos Setting（未サポート）
 - DMZ setting（未サポート）
 - 静的ルーティング設定
 - QoS 設定（未サポート）
 - メンテナンス
 - 管理者パスワードの設定
 - 時刻の設定
 - バックアップ
 - 設定値の初期化
 - ファームウェアの更新
 - システムログ
 - 情報
 - 現在の状態 (PPPoE)
 - 現在の状態 (固定 IP/DHCP)
 - 電話の状態と状態の変更
 - ルーティングテーブルの状態
 - ログアウト
 - 設定を保存して再起動

ボタンのはたらき

「設定」ボタン

現在の設定ページで入力した内容を一時的に記憶するボタンです (図 6.4.1、p.19)。設定ページで設定内容を入力したら、別の設定ページに移動する前に、必ず「設定」ボタンをクリックしてください (クリックせずに、設定ページを移動してしまうと入力内容が失われます)。

「設定」ボタンにより一時的に記憶した内容を、本製品の動作に反映するためには、「6.5 設定内容の保存と動作への反映 (設定の終了)」(p.23) を実行する必要があります。

「発信ルーティング設定」、「静的ルーティング設定」などテーブルを持つ設定画面は「設定」ボタンを持ちません。そのかわり、「追加 / 編集」、「再読み込み」、「適用」、「削除」ボタンを持っています (図 6.4.3、p.21)。

「変更前に戻す」ボタン

入力値、プルダウンメニュー、ラジオボタン、チェックボックスなどの変更内容を変更前の状態に戻すボタンです (「設定」ボタンをクリックすると、「変更前に戻す」ボタンで変更前に戻せなくなります)。

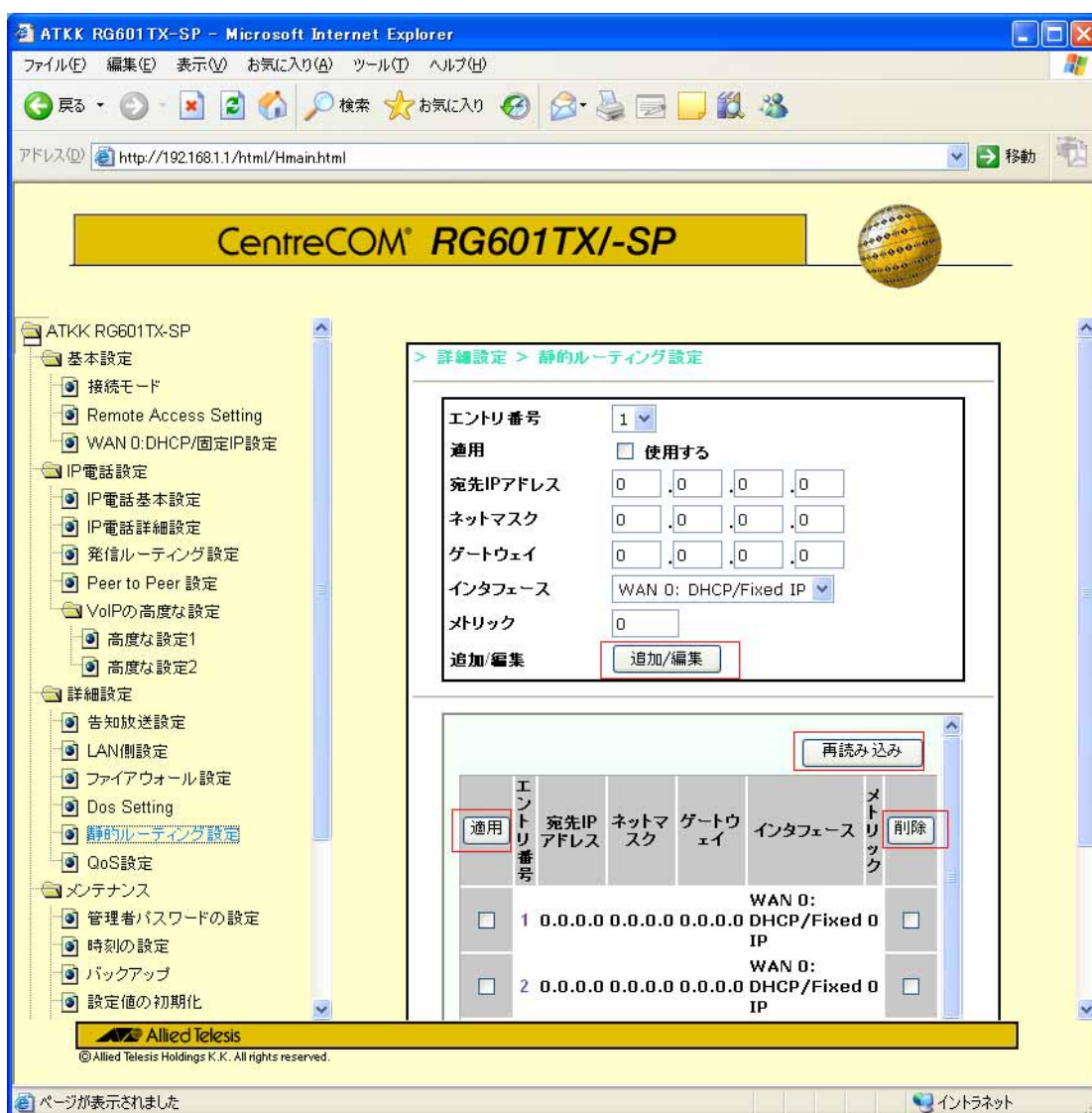


図 6.4.3 テーブルを持つ設定画面の例

「追加 / 編集」ボタン

テーブルを持つ設定画面は、「追加 / 編集」ボタンを持つものがあります。「追加 / 編集」ボタンにより、選択したエントリー番号の内容の追加や編集ができます。このボタンをクリックすると、内容の追加や編集は画面下側のテーブルに登録 (表示) され、他のページに移動しても失われません。

「追加 / 編集」ボタンにより追加、編集した内容を、本製品の動作に反映するためには、「6.5 設定内容の保存と動作への反映（設定の終了）」(p.23) を実行する必要があります。

「再読み込み」ボタン

画面下側のテーブルに表示されているエントリーの内容を再描画します。このボタンのクリックにより、設定の内容が変更されることはありません。

「適用」ボタン

テーブルを持つ設定画面には、テーブルの左側に各エントリーを本製品の動作に適用するかどうかを指定するチェックボックス（以下適用チェックボックスと言う）と、「適用」ボタンを持つものがあります（静的ルーティング設定など）。適用チェックボックスと「適用」ボタンによって、各エントリーの適用の可否を一括して行うことができます。

適用チェックボックスを変更したら、別の設定ページに移動する前に、必ず「適用」ボタンをクリックしてください（クリックせずに、設定ページを移動してしまうと入力内容が失われます）。

エントリーの適用を、本製品の動作に反映するためには、「6.5 設定内容の保存と動作への反映（設定の終了）」(p.23) を実行する必要があります。

「削除」ボタン

テーブルを持つ設定画面は、テーブルの右側に各エントリーの内容を削除するかどうかを指定するチェックボックス（以下削除チェックボックスと言う）と、「削除」ボタンを持ちます。削除チェックボックスと「削除」ボタンによって、各エントリー内容の削除を一括して行うことができます。

内容の削除を、本製品の動作に反映するためには、「6.5 設定内容の保存と動作への反映（設定の終了）」(p.23) を実行する必要があります。

6.5 設定内容の保存と動作への反映（設定の終了）

- 1 設定ページで設定内容を入力したら、別の設定ページに移動する前に、必ず「設定」ボタンをクリックしてください（テーブルを持つ設定画面では「追加 / 編集」や「適用」、「削除」ボタン）。
「設定」ボタンのクリックにより、入力した内容が一時的に記憶されます（クリックしないと、設定ページの移動により入力内容が失われます）。
- 2 各設定ページの設定を終えたら、最後にメニューフレームの「設定を保存して再起動」をクリックしてください。設定内容が保存され、自動的に再起動が行われます。設定内容は、動作に反映されます。

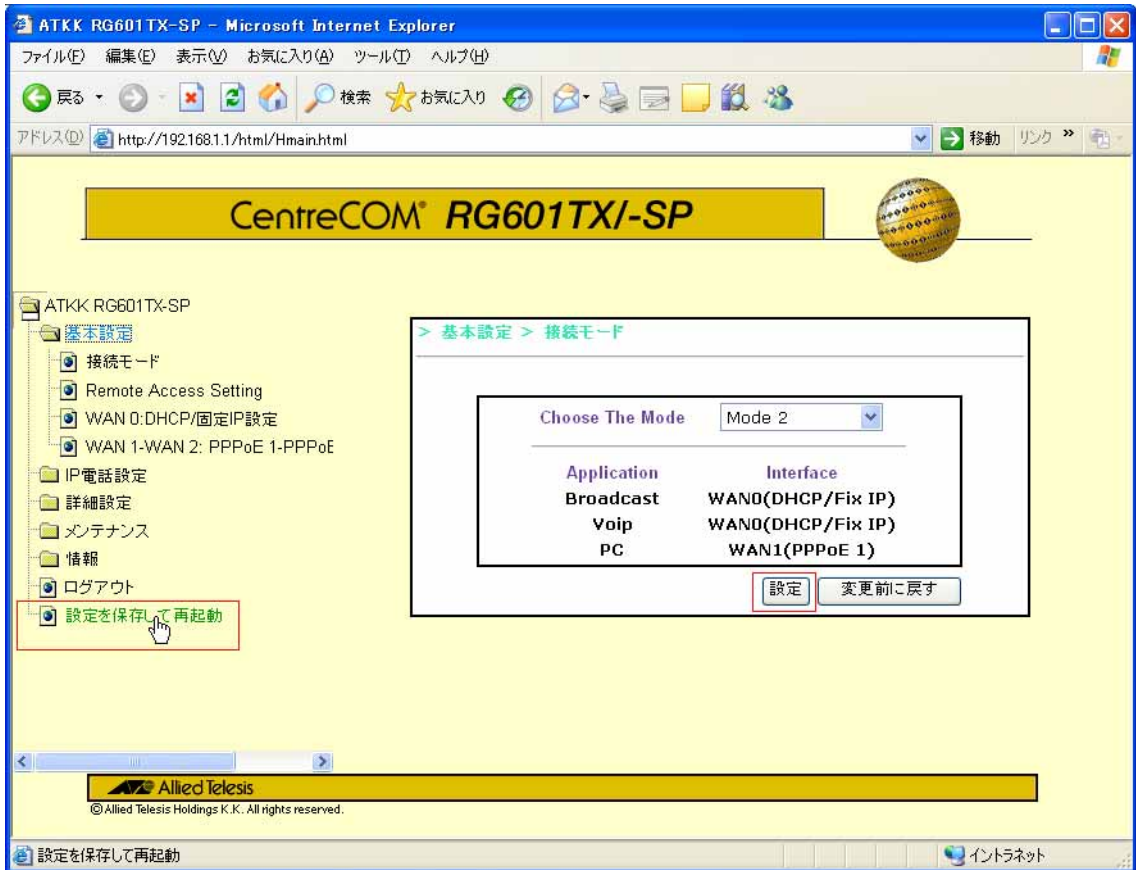


図 6.5.1

- 3 「Save & Reboot」 ボタンをクリックしてください。

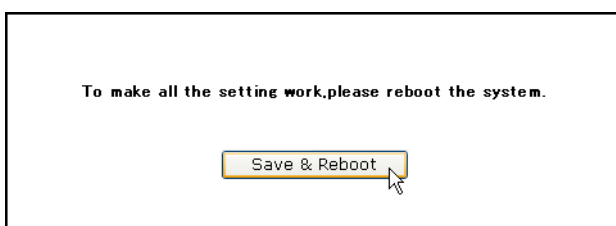


図 6.5.2

- 4 再起動が完了すると、ログインを促す画面（図 6.3.1、p.18）が現れます。

6.6 ログアウト

- 1 メニューフレームの「ログアウト」をクリックしてください。
- 2 本製品の設定画面からログアウトし、ログイン画面（図 6.3.1、p.18）が表示されます。

7 WAN に接続するための設定 (基本設定)

7.1 接続モード

WAN (利用するサービス) への接続モードを設定します。次の3つのモードが選択可能です。

Mode 1 (ブリッジ)

- DHCP による取得または固定設定による IP アドレスを使って、告知放送、IP 電話、インターネットへの接続の3つのサービスを受ける
- WAN、LAN ポート間はブリッジとして動作 (本製品の設定の便宜のために、LAN ポートは IP アドレス (デフォルトは 192.168.1.1) や DHCP サーバ機能を持ちますが、LAN ポートのネットワークアドレスを持つパケットは WAN 側にフォワードされません。しかしながら、それ以外のネットワークアドレスを持つパケットは WAN、LAN ポート間で透過されます)

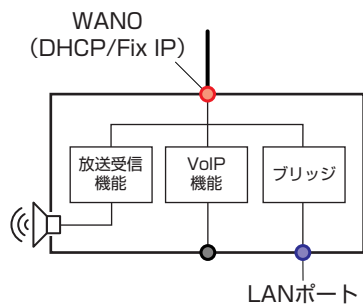


図 7.1.1 Mode 1

Mode 2 (ハイブリッド)

- DHCP による取得または固定設定による IP アドレスを使って、告知放送、IP 電話の2つのサービスを受ける
- インターネットへは PPPoE で接続し、WAN、LAN ポート間はルーターとして動作
- デフォルトルートは WAN1 (PPPoE1) に固定されている

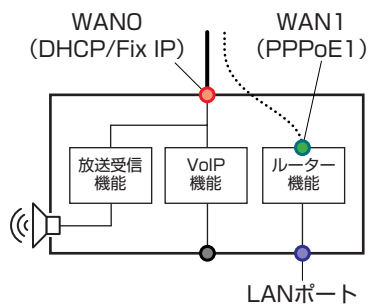


図 7.1.2 Mode 2

下記の模式図をもとにして、Mode 2におけるIPアドレス（基本設定）の設定例を示します。

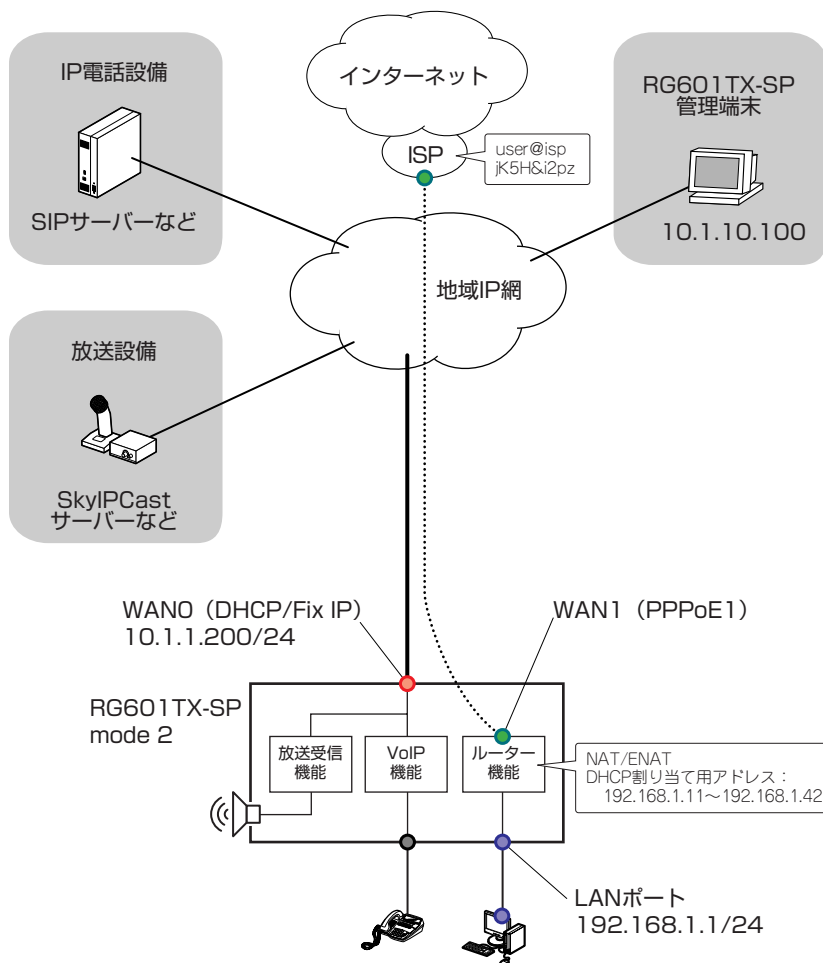


図 7.1.3 Mode2 接続の模式図

- 1 メニューフレームの「基本設定」の「接続モード」をクリックしてください。
- 2 「Choose The Mode」で「Mode 2」を選択してください。

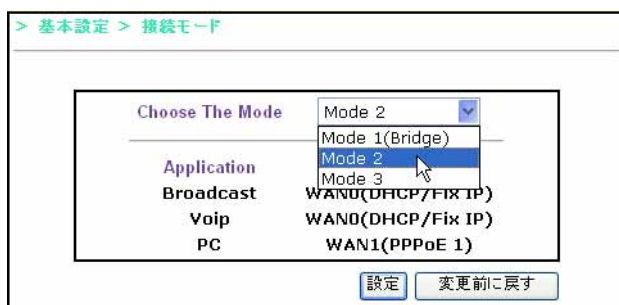


図 7.1.4

3 「設定」 ボタンをクリックしてください。

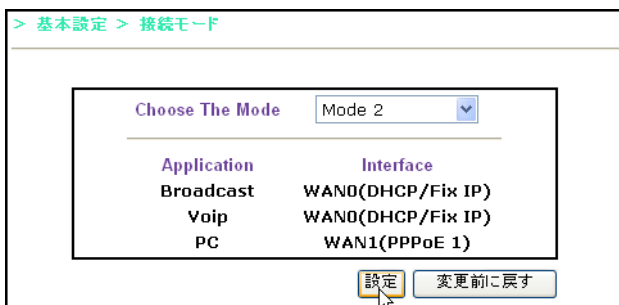


図 7.1.5

4 他のページの設定に進んでください。設定が必要なすべてのページの設定を終えたら、最後にメニューフレームの「設定を保存して再起動」をクリックしてください。

7.2 WAN 0:DHCP/ 固定 IP 設定

WAN 側のイーサネットインターフェース (WAN 0) に IP アドレスを設定します。IP アドレスは、DHCP により取得するか、固定的に設定します。「Mode 2」では、このアドレスは IP 電話と告知放送サービスで使用します。

IP アドレスの固定設定

- 1 メニューフレームの「基本設定」の「WAN 0:DHCP/ 固定 IP 設定」をクリックしてください。
- 2 「DHCP Enable」のチェックが外れた状態で、「IP アドレス」、「ネットマスク」、「ゲートウェイアドレス」、「プライマリ DNS」、「セカンダリ DNS」を入力し、「設定」ボタンをクリックしてください。



図 7.2.1 WAN0 DHCP/Static IP 設定画面 (Static)

表 7.2.1 WAN0 の各設定パラメーター

DHCP Enable		WAN ポートで DHCP クライアントを有効にするか否か。デフォルトは「無効」(チェック無し)。有効にすると、以下の IP アドレスなどの固定設定は無視される。
IP アドレス設定	IP アドレス	ISP から指定された IP アドレスを入力する。
	ネットマスク	ISP から指定されたネットマスクを入力する。
ゲートウェイの設定	ゲートウェイアドレス	ISP から指定されたゲートウェイアドレスを入力する。
ネームサーバ設定	プライマリ DNS	ISP から指定されたプライマリー DNS サーバーの IP アドレスを入力する。
	セカンダリ DNS	ISP から指定されたセカンダリー DNS サーバーの IP アドレスを入力する。

3 他のページの設定に進んでください。設定が必要なすべてのページの設定を終えたら、最後にメニューフレームの「設定を保存して再起動」をクリックしてください。

DHCP による IP アドレス取得

- 1 メニューフレームの「基本設定」の「WAN 0:DHCP/固定IP 設定」をクリックしてください。
- 2 「DHCP Enable」にチェックを入れ、「設定」ボタンをクリックしてください。

> 基本設定 > WAN 0:DHCP/固定IP設定

DHCP Enable

IPアドレス設定

IPアドレス	10	.	1	.	1	.	1
ネットマスク	255	.	0	.	0	.	0

ゲートウェイの設定

ゲートウェイアドレス	10	.	1	.	1	.	254
------------	----	---	---	---	---	---	-----

ネームサーバ設定

プライマリDNS	0	.	0	.	0	.	0
セカンダリDNS	0	.	0	.	0	.	0

設定 変更前に戻す

図 7.2.2 WAN0 DHCP/Static IP 設定画面 (DHCP)

- 3 他のページの設定に進んでください。設定が必要なすべてのページの設定を終えたら、最後にメニューフレームの「設定を保存して再起動」をクリックしてください。

7.3 WAN 1-WAN 2: PPPoE 1-PPPoE 2 configuration

「基本設定」の「接続モード」で「Mode 2」を選択すると、「WAN 1-WAN 2: PPPoE 1-PPPoE 2 configuration」が表示されます。「WAN 1-WAN 2: PPPoE 1-PPPoE 2 configuration」によって、PPP インターフェースを設定します。「Mode 2」では、PPP インターフェース (PPPoE 1) は ISP への接続に使用します (LAN ポート配下にあるコンピューターにインターネット接続サービスを提供します)。

B フレッツへの接続

- 1 メニューフレームの「基本設定」の「WAN 1-WAN 2: PPPoE 1-PPPoE 2 configuration」をクリックしてください。
- 2 「Mode 2」の場合、「接続先選択」は「接続先 1」のみが選択可能です。
- 3 「接続先設定」の「ユーザ名」、「パスワード」に NTT から指定された文字列を入力し (その他の項目はデフォルトのまま)、「設定」ボタンをクリックしてください。

The screenshot shows the configuration page for WAN 1-WAN 2: PPPoE 1-PPPoE 2 configuration. The page is titled '基本設定 > WAN 1-WAN 2: PPPoE 1-PPPoE 2 configuration' and has a '接続先選択' dropdown menu set to '接続先1'. The configuration is organized into several sections:

- 接続先設定**: Channel Verify (オプションなし), 接続先名 (empty), AC名 (empty), ユーザ名 (user@isp), パスワード (masked with dots).
- IPアドレス設定**: IPアドレス自動取得 (checked, 使用する), IPアドレス (0.0.0.0).
- ネームサーバ設定**: プライマリDNS (自動取得), セカンダリDNS (自動取得).
- 認証設定**: 暗号化方法, 自動認証.
- 接続設定**: 接続モード (常時接続), 自動切断 (checked, 使用する), 接続先の切断 (自動切断するまでの時間(秒) 1800 (0 - 43200)).
- PPPキーブアライブ**: PPPキーブアライブ (checked, 使用する), LCP ECHO送信間隔(秒) 60 (1 - 255), LCP ECHOトライ回数(回) 5 (1 - 255).

At the bottom right, there are two buttons: '設定' (Settings) and '変更前に戻す' (Return to previous settings). The '設定' button is highlighted with a mouse cursor.

図 7.3.1

- 4 他のページの設定に進んでください。設定が必要なすべてのページの設定を終えたら、最後にメニューフレームの「設定を保存して再起動」をクリックしてください。

表 7.3.1 WAN1-WAN2 の各設定パラメーター

接続先選択		設定対象の PPPoE セッションを選択する。 接続モードが Mode2 の場合は「接続先 1」のみが選択可能。
接続先設定	Channel Verify	「オプションなし」、「AC 名」、「接続先名」から選択する。ISP の指示がない場合「オプションなし」を選択する。デフォルトは「オプションなし」。
	接続先名	サービス名。ISP の指示がない場合、空欄にする。デフォルトは空欄。
	AC 名	アクセスコンセントレーター名。ISP の指示がない場合、空欄にする。デフォルトは空欄。
	ユーザ名	ISP から指示されたユーザ名を入力する。 (例) user@isp
	パスワード	ISP から指示されたパスワードを入力する。 (例) jK5H&i2pz
IP アドレス設定	IP アドレス自動取得	ISP から IP アドレスを自動取得するか否か。 デフォルトは「使用する」(自動取得)。
	IP アドレス	IP アドレスを固定的に設定する場合は、「IP アドレス自動取得」の「使用する」をチェックせずに、ここ IP アドレスを入力する。
ネームサーバー設定	プライマリ DNS	ISP からプライマリ DNS サーバーの IP アドレスを自動取得する場合は「自動取得」を選択する。 プライマリ DNS サーバーの IP アドレスを固定的に設定する場合は「ユーザ指定」を選択し、IP アドレスを入力する。デフォルトは「自動取得」。
	セカンダリ DNS	ISP からセカンダリ DNS サーバーの IP アドレスを自動取得する場合は「自動取得」を選択する。 セカンダリ DNS サーバーの IP アドレスを固定的に設定する場合は「ユーザ指定」を選択し、IP アドレスを入力する。デフォルトは「自動取得」。
接続設定	接続モード	「常時接続」、「要求時接続」を選択する。 デフォルトは「常時接続」。
接続先の切断	自動切断	「要求時接続」において、無通信状態が持続したときに「自動切断」を行うか否か。 デフォルトは「使用する」(自動切断)。 「接続モード」が「常時接続」の場合は、「使用する」のチェックは無視される。
	自動切断するまでの時間	無通信状態が持続したときに自動切断するまでの秒数。 0 ~ 43200 を入力する。デフォルトは「1800」。
PPP キープアライブ	PPP キープアライブ	「常時接続」において、「PPP キープアライブ」を行うか否か。これを行うと、何らかの要因で PPP セッションが切断されたとき、自動接続を行う。 デフォルトは「使用する」(行う)。
	LCP ECHO 送信間隔	1 ~ 255 の秒数を入力する。デフォルトは「60」。
	LCP ECHO リトライ回数	LCP ECHO が届かない場合のリトライ回数。 1 ~ 255 までの回数を入力する。デフォルトは「5」。

7.4 Remote Access Setting

WAN 側のインターフェースからの、本製品の設定ページへのアクセスや、TELNET によるログインを許すか否かを設定します。

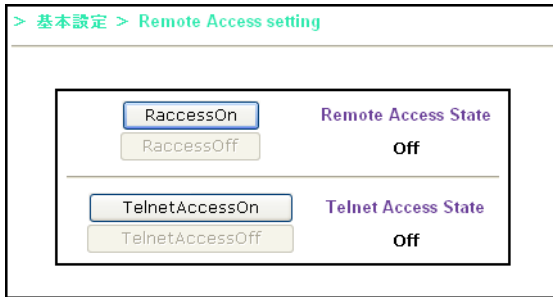


図 7.4.1 Remote Access 設定画面

WAN 側からの Web アクセスを許可する

- 1 メニューフレームの「基本設定」の「Remote Access Setting」をクリックしてください。
- 2 「RaccessOn」 ボタンをクリックしてください。「Remote Access State」が「On」に変わります。
- 3 他のページの設定に進んでください。設定が必要なすべてのページの設定を終えたら、最後にメニューフレームの「設定を保存して再起動」をクリックしてください。

WAN 側からの Web アクセスを禁止する

- 1 メニューフレームの「基本設定」の「Remote Access Setting」をクリックしてください。
- 2 「RaccessOff」 ボタンをクリックしてください。「Remote Access State」が「Off」に変わります。
- 3 他のページの設定に進んでください。設定が必要なすべてのページの設定を終えたら、最後にメニューフレームの「設定を保存して再起動」をクリックしてください。

WAN 側からの TELNET によるログインを許可する（未サポート）

- 1 メニューフレームの「基本設定」の「Remote Access Setting」をクリックしてください。
- 2 「TelnetAccessOn」 ボタンをクリックしてください。「Telnet Access State」が「On」に変わります。
- 3 他のページの設定に進んでください。設定が必要なすべてのページの設定を終えたら、最後にメニューフレームの「設定を保存して再起動」をクリックしてください。

WAN 側からの TELNET によるログインを禁止する（未サポート）

- 1 メニューフレームの「基本設定」の「Remote Access Setting」をクリックしてください。
- 2 「TelnetAccessOff」 ボタンをクリックしてください。「Telnet Access State」が「Off」に変わります。
- 3 他のページの設定に進んでください。設定が必要なすべてのページの設定を終えたら、最後にメニューフレームの「設定を保存して再起動」をクリックしてください。

8 IP 電話の設定

IP 電話を利用できるようにするための設定について、次の模式図をもとに説明します。SIP サーバーを設置し、SIP サーバーを介した呼制御を行います。電話機は本製品の TEL ポート (FXS ポート) に接続します。本製品は LINE ポート (FXO ポート) も搭載しているため、ライフライン機能 (停電のとき、自動的に PSTN で通話を確認する機能) や発信ルーティング設定 (特定番号を電話番号の前に付けることにより、発信者の意思に応じて PSTN 網を使用すること) が可能です。

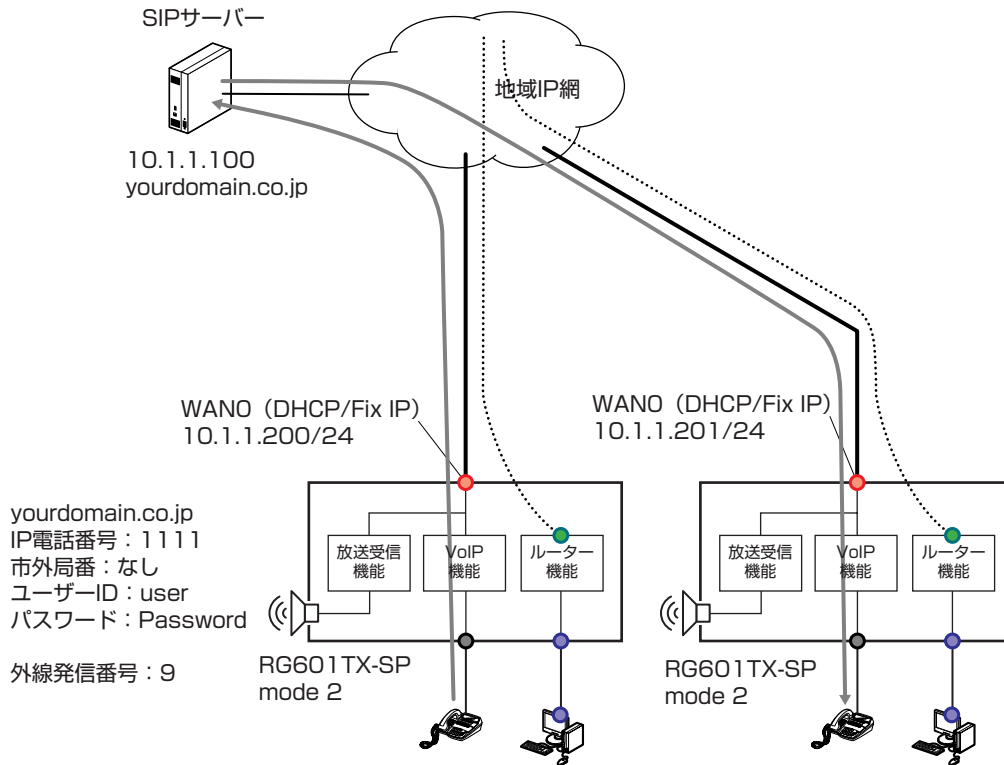


図 8.0.1 IP 電話の模式図

8.1 IP 電話基本設定

この画面では SIP サーバーに関する各設定を行います。

- 1 メニューフレームの「IP 電話設定」の「IP 電話基本設定」をクリックしてください。
- 2 「SIP サーバーアドレス」、「SIP サーバーポート番号」、「SIP ドメイン名」、「IP 電話番号」、「市外局番」、「ユーザ ID」、「パスワード」を環境に合わせて入力し、「設定」ボタンをクリックしてください。

> IP電話設定 > IP電話基本設定

VAD Status: On Off

IP電話設定

SIPサーバアドレス

SIPサーバポート番号

SIPドメイン名

IP電話番号

市外局番

認証設定

ユーザID

パスワード

図 8.1.1 IP 電話基本設定

表 8.1.1 IP 電話基本設定

VAD Status		VAD (Voice Activity Detectors、無音圧縮) を有効にするか否か。 「on」、「off」から選択する。デフォルトは「on」。
IP 電話設定	SIP サーバアドレス	SIP サーバーの IP アドレスを入力する。
	SIP サーバポート番号	SIP サーバーのポート番号を入力する。 デフォルトは「5060」。
	SIP ドメイン名	SIP ドメイン名を入力する。
	IP 電話番号	本製品の IP 電話番号を入力する。
	市外局番	市外局番を入力する。
認証設定	ユーザ ID	SIP サーバーからの認証を受ける際に使用するユーザ ID を入力する。
	パスワード	上記のユーザ ID に対するパスワードを入力する。

- 3 他のページの設定に進んでください。設定が必要なすべてのページの設定を終えたら、最後にメニューフレームの「設定を保存して再起動」をクリックしてください。
- 4 SIP サーバーへの本製品の登録が完了すると、本製品の TEL LED が点灯します。TEL LED が点灯していない場合、IP 回線による通話はできません。

8.2 IP 電話詳細設定

この画面は本製品の TEL に接続した電話機に対するサービスなどの設定を行います。

- 1 メニューフレームの「IP 電話設定」の「IP 電話詳細設定」をクリックしてください。
- 2 この画面の設定は、通常デフォルトでかまいません。必要であれば変更し、「設定」ボタンをクリックしてください。

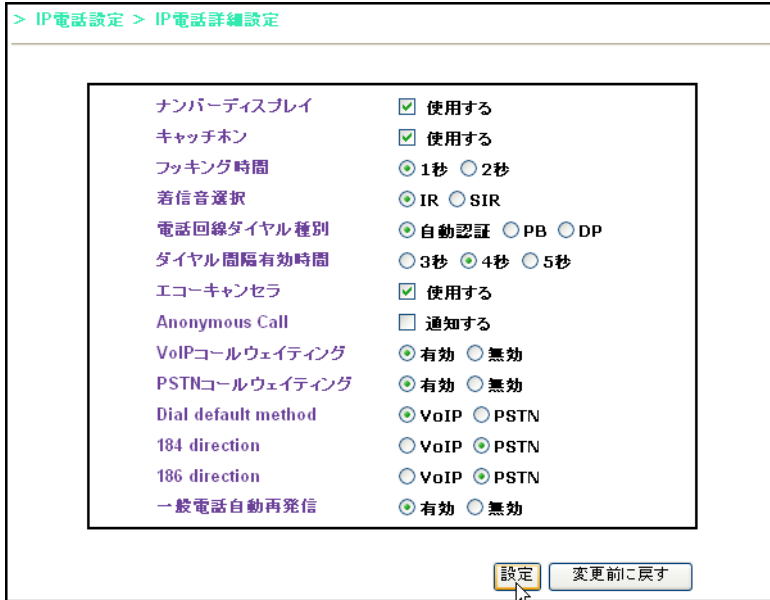


図 8.2.1 IP 電話詳細設定

表 8.2.1 IP 電話詳細設定

ナンバーディスプレイ	ナンバーディスプレイを使用するか否か。 デフォルトは「使用する」(チェック有り)。
キャッチホン	フッキング信号を送信するか否か。 「PSTN コールウェイティング」の設定も必要。 デフォルトは「使用する」(チェック有り)。 チェックを無しにすると、フッキング信号を送信しない。
フッキング時間	フッキングと見なす時間。「1 秒」、「2 秒」から選択する。 デフォルトは「1 秒」。
着信音選択	「IR」、「SIR」から選択する。デフォルトは「IR」。
電話回線ダイヤル種別	「自動選択」、「PB」、「DP」から選択する。デフォルトは「自動選択」。
ダイヤル間隔有効時間	電話番号の入力を終えたときと見なす時間 (この秒数以上の間 TEL ポートからのダイヤル信号がなければ発呼する)。「3 秒」、「4 秒」、「5 秒」から選択する。 デフォルトは「4 秒」。
エコーキャンセラ	エコーキャンセラを使用するか否か。 デフォルトは「使用する」(チェック有り)。
Anonymous Call	発信者情報を通知するか否か。 デフォルトは「通知しない」(チェック無し)。
VoIP コールウェイティング (未サポート)	IP 回線からの割り込み着信を知らせるか否か。「キャッチホン」の設定も必要。「有効」、「無効」から選択する。デフォルトは「有効」。
PSTN コールウェイティング	PSTN からの割り込み着信を知らせるか否か。「キャッチホン」の設定も必要。「有効」、「無効」から選択する。デフォルトは「有効」。
Dial default method	発呼時に使用するデフォルトの回線。 「PSTN」、「VoIP」から選択する。デフォルトは「VoIP」。
184 direction	「184」が付加された電話番号を発呼する際に使用する回線。 「PSTN」、「VoIP」から選択する。デフォルトは「PSTN」。
186 direction	「186」が付加された電話番号を発呼する際に使用する回線。 「PSTN」、「VoIP」から選択する。デフォルトは「PSTN」。
一般電話自動再発信	VoIP による発呼に失敗したとき、PSTN による発呼を行うか否か。 「有効」、「無効」から選択する。デフォルトは「有効」。

- 3 他のページの設定に進んでください。設定が必要なすべてのページの設定を終えたら、最後にメニューフレームの「設定を保存して再起動」をクリックしてください。

8.3 発信ルーティング設定

PSTN を使用する電話番号のパターンを登録するテーブルです。ユーザーがダイヤルした電話番号が、このテーブルに登録されているパターンにマッチすると、本製品は PSTN を使用して発呼します。また、特定のパターンの電話番号に対して、実際に発呼するときの電話番号を操作することができます。40 エントリーのパターンを登録することができます。

例えば、先頭が「9」の電話番号は、IP 回線ではなく PSTN を使用して電話をかけるようにするには（すなわち外線発信番号を「9」にするには）、次のように設定します。

- 1 メニューフレームの「IP 電話設定」の「発信ルーティング設定」をクリックしてください。
- 2 「エントリ番号」で希望の番号を選択してください。図 8.3.1 の例では「1」を選択しています。「発信番号」に「9xxxxxxxxx」を入力します。「x」（小文字）は、任意の数字 1 文字にマッチするワイルドカードです。したがって、「9xxxxxxxxx」は先頭が「9」の 11 文字の電話番号にマッチします。「Delete」に「1」を入力します。これにより、先頭の 1 文字、すなわち「9」を外した電話番号を PSTN に通知します。
- 3 「追加 / 編集」ボタンをクリックしてください。

図 8.3.1 電話番号パターンの登録

表 8.3.1 発信ルーティング設定

エントリ番号	設定対象のエントリー番号を選択する。 1 ~ 40 が選択可能。
発信番号	ユーザーが電話機でダイヤルする電話番号の列を入力する。ユーザーがダイヤルした電話番号がここに入力されている電話番号にマッチしたら、本製品は PSTN を使用して発呼する。 「0 ~ 9」の数字、「x」（小文字）が入力可能。 「x」はワイルドカードで、任意の数字 1 文字（0 ~ 9）にマッチする。
Delete	本製品が PSTN を使用して発呼する際に、ユーザーがダイヤルした電話番号を先頭から何文字ほど削除するか指定する。 0 ~ 30 を入力可能。デフォルトは「0」（1 文字も削除しない）。

4 外線発信番号の設定が登録されます。

エントリー番号	発信番号	Delete	削除
1	9xxxxxxxxxxx	1	<input checked="" type="checkbox"/>
2		0	<input type="checkbox"/>
3		0	<input type="checkbox"/>
4		0	<input type="checkbox"/>
5		0	<input type="checkbox"/>
6		0	<input type="checkbox"/>
7		0	<input type="checkbox"/>
8		0	<input type="checkbox"/>
9		0	<input type="checkbox"/>
10		0	<input type="checkbox"/>
11		0	<input type="checkbox"/>
12		0	<input type="checkbox"/>
13		0	<input type="checkbox"/>

図 8.3.2 登録されたパターン

- 5 必要に応じて他のエントリー番号に対しても、手順 2～4 と同様に登録してください。
- 6 他のページの設定に進んでください。設定が必要なすべてのページの設定を終えたら、最後にメニューフレームの「設定を保存して再起動」をクリックしてください。

エントリー内容の変更

- 1 メニューフレームの「IP 電話設定」の「発信ルーティング設定」をクリックしてください。
- 2 「エントリー番号」プルダウンメニューで希望の番号を選択し、エントリーの内容を変更して、「追加 / 編集」ボタンをクリックしてください。
- 3 他のページの設定に進んでください。設定が必要なすべてのページの設定を終えたら、最後にメニューフレームの「設定を保存して再起動」をクリックしてください。

エントリー内容の削除

- 1 メニューフレームの「IP 電話設定」の「発信ルーティング設定」をクリックしてください。
- 2 削除したいエントリーの右のチェックボックスにチェックを入れ、「削除」ボタンをクリックしてください。

エントリー番号	発信番号	Delete	削除
1	9xxxxxxxxxxx	1	<input checked="" type="checkbox"/>
2		0	<input type="checkbox"/>
3		0	<input type="checkbox"/>

図 8.3.3 発信ルーティング設定のエントリー内容の削除

- 3 他のページの設定に進んでください。設定が必要なすべてのページの設定を終えたら、最後にメニューフレームの「設定を保存して再起動」をクリックしてください。

8.4 Peer to Peer の設定

IP アドレスと電話番号を静的に対応づけるテーブルです。本製品は、電話番号を SIP サーバーに照会する前に、このテーブルを参照します。10 個のエントリーが登録できます。

- 1 メニューフレームの「IP 電話設定」の「Peer to Peer 設定」をクリックしてください。
- 2 「Peer to Peer Mode:」の「有効」をクリックし、「設定」ボタンをクリックしてください。



図 8.4.1 「Peer to Peer Mode」の有効化

- 3 「エントリ番号」で希望の番号を選択してください。図 8.4.2 では「1」を選択しています。「電話番号」を入力してください。「IP アドレス」の「@」の左側にも同じ「電話番号」を入力し、右側にはその電話番号を持つ IP アドレスを入力してください。ポート番号を入力してください。
- 4 「設定」ボタンをクリックしてください。

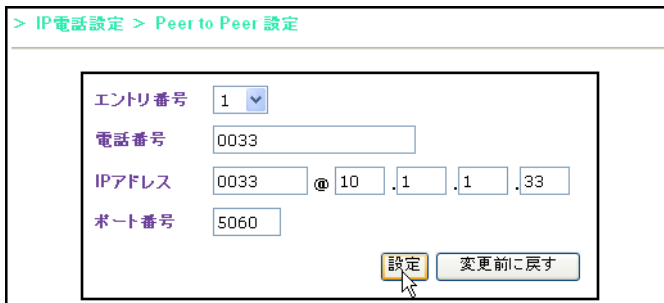


図 8.4.2

表 8.4.1 Peer to Peer 設定

エントリ番号	設定対象のエントリー番号を選択する。 1～10 が選択可能。
電話番号	本製品のテーブルに静的に登録する接続相手の電話番号を入力する。
IP アドレス	「@」の左の欄には、上記と同じ電話番号を入力する。 「@」の右には、接続相手の電話番号を持つ電話機の IP アドレスを入力する。
ポート番号	接続相手の電話番号を持つ電話機のポート番号を入力する。

5 IPアドレスと電話番号の静的な対応づけが登録されます。

> IP電話設定 > Peer to Peer 設定

エントリ番号 1

電話番号 0033

IPアドレス 0033 @ 10 .1 .1 .33

ポート番号 5060

設定 変更前に戻す

エントリ番号	電話番号	IPアドレス	ポート番号	削除
1	0033	0033 @ 10.1.1.33	5060	<input type="checkbox"/>
2		@ 0.0.0.0	0	<input type="checkbox"/>
3		@ 0.0.0.0	0	<input type="checkbox"/>
4		@ 0.0.0.0	0	<input type="checkbox"/>
5		@ 0.0.0.0	0	<input type="checkbox"/>
6		@ 0.0.0.0	0	<input type="checkbox"/>
7		@ 0.0.0.0	0	<input type="checkbox"/>
8		@ 0.0.0.0	0	<input type="checkbox"/>
9		@ 0.0.0.0	0	<input type="checkbox"/>
10		@ 0.0.0.0	0	<input type="checkbox"/>

図 8.4.3

6 必要に応じて他のエントリ番号に対しても、手順3～5と同様に登録してください。

7 他のページの設定に進んでください。設定が必要なすべてのページの設定を終えたら、最後にメニューフレームの「設定を保存して再起動」をクリックしてください。

エントリ内容の削除

1 メニューフレームの「IP電話設定」の「Peer to Peer 設定」をクリックしてください。

2 削除したいエントリの右のチェックボックスにチェックを入れ、「削除」ボタンをクリックしてください。

エントリ番号	電話番号	IPアドレス	ポート番号	削除
1	0033	0033 @ 10.1.1.33	5060	<input checked="" type="checkbox"/>
2		@ 0.0.0.0	0	<input type="checkbox"/>
3		@ 0.0.0.0	0	<input type="checkbox"/>

図 8.4.4 発信ルーティング設定のエントリ内容の削除

3 他のページの設定に進んでください。設定が必要なすべてのページの設定を終えたら、最後にメニューフレームの「設定を保存して再起動」をクリックしてください。

8.5 高度な設定 1

- 1 メニューフレームの「IP 電話設定」の「VoIP の高度な設定」の「高度な設定 1」をクリックしてください。
- 2 この画面の設定は、通常デフォルトでかまいません。必要であれば変更し、「設定」ボタンをクリックしてください。

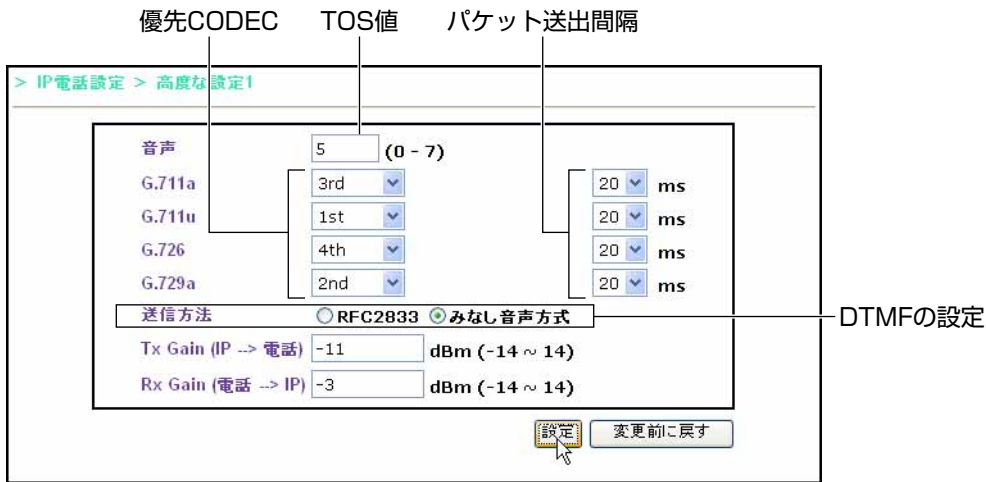


図 8.5.1 高度な設定 1

表 8.5.1 高度な設定 1

TOS 値	本製品が送信する音声パケットの IP TOS 優先度 (TOS オクテットの precedence)。0 ~ 7 を入力する。デフォルトは「5」。
優先 CODEC	着呼または発呼において、本製品が希望する CODEC の優先順。各 CODEC の方法に対して「no-use」(使用しない)、「1st」、「2nd」、「3rd」、「4th」を選択する。デフォルトは「G.711u」、「G.729a」、「G.711a」、「G.726」の順。
パケット送出間隔	音声パケットの送出間隔。「10」、「20」、「30」(mS) から選択する。デフォルトは「20」。
DTMF の設定	DTMF トーンを検出したときの動作。「RFC2833」または「みなし音声方式」から選択する。デフォルトは「みなし音声方式」。
Tx Gain (IP->電話)	IP 回線から電話機に向かう音声の大きさ。-14 から 14 (dBm) の値を入力する。デフォルトは「-3」。
Rx Gain (電話->IP)	電話機から IP 回線に向かう音声の大きさ。-14 から 14 (dBm) の値を入力する。デフォルトは「-11」。

- 3 他のページの設定に進んでください。設定が必要なすべてのページの設定を終えたら、最後にメニューフレームの「設定を保存して再起動」をクリックしてください。

8.6 高度な設定 2

- 1 メニューフレームの「IP 電話設定」の「VoIP の高度な設定」の「高度な設定 2」をクリックしてください。
- 2 この画面の設定は、通常デフォルトでかまいません。必要であれば変更し、「設定」ボタンをクリックしてください。

> IP電話設定 > 高度な設定2

URLタイプ	<input checked="" type="radio"/> SIP_URL <input type="radio"/> TEL_URL
期間切れ	<input type="text" value="3600"/> (1 - 65535)
Enable Session Expires	<input type="checkbox"/> 有効
Session Expires	<input type="text" value="180"/> (100 - 3600)
Min-SE	<input type="text" value="180"/> (100 - 1800)
T2	<input checked="" type="radio"/> 4秒 <input type="radio"/> 8秒 <input type="radio"/> 16秒 <input type="radio"/> 32秒

図 8.6.1 高度な設定 2

表 8.6.1 高度な設定 2

URL タイプ	SIP URL のタイプ。 「SIP_URL」、「TEL_URL」から選択する。デフォルトは「SIP_URL」。
期限切れ	SIP サーバーが登録を抹消するまでの時間。1～65535の秒数を入力する。 デフォルトは「3600」。
Enable Session Expires	セッションエクスパイアタイマーを有効にするか否か。 デフォルトは「無効」(チェック無し)。
Session Expires (未サポート)	セッションエクスパイアタイマーの値。 100～3600の秒数を入力する。デフォルトは「180」。
Min-SE	セッションエクスパイアタイマー値をネゴシエーションするとき、本製品が希望する 最少値。100～1000の秒数を入力する。デフォルトは「180」。
T2	メッセージの再送間隔の最大値 (T2 タイマー値)。 「4 秒」、「8 秒」、「16 秒」、「32 秒」から選択する。デフォルトは「4 秒」。

- 3 他のページの設定に進んでください。設定が必要なすべてのページの設定を終えたら、最後にメニューフレームの「設定を保存して再起動」をクリックしてください。

9 告知放送の設定（詳細設定、RG601TX-SP のみ）

9.1 IP 告知放送概要

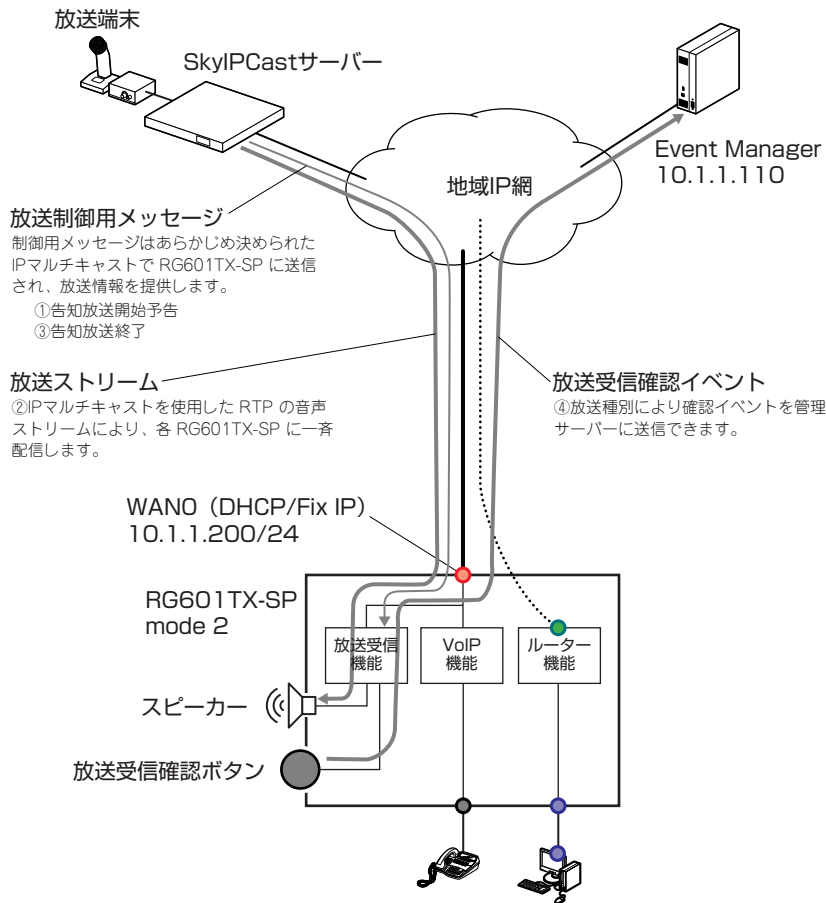


図 9.1.1 IP 告知放送概要

SkyIPCast サーバーは、以下のシーケンスで IP 告知放送を行います。

- 1 SkyIPCast サーバーは、放送開始予告メッセージを送信します。メッセージには、次の情報が含まれています。
 - 放送チャンネル番号
 - 優先度
 - 放送ストリームマルチ IP アドレス
 - 放送受信確認イベントの有無
 - 放送前 Wav ファイルの形式（放送開始のサイレン音、チャイム音などの指定）
- 2 放送ストリーム
放送開始予告メッセージの「放送ストリームマルチ IP アドレス」を使用して、IP 電話と同じ RTP パケットを配信します。
- 3 放送終了メッセージ
放送ストリーム終了通知と終了時に流す Wav ファイルを指定します。
- 4 放送受信確認イベント
放送開始予告メッセージで「放送受信確認イベント有」を通知した場合、RG601TX-SP の放送受信確認イベント機能が有効になり、「放送受信確認ボタン」が点滅します。聴取者がボタンを押すと、イベントは管理サーバー（Event Manager）に送信されます。

9.2 IP 告知放送設定パラメーター

- 1 メニューフレームの「詳細設定」の「告知放送設定」をクリックしてください。
- 2 各項目を入力し、「設定」ボタンをクリックしてください。

図 9.2.1 IP 告知放送設定画面

表 9.2.1 告知放送設定パラメーター

Skywave Event Manager	管理サーバー（放送受信確認イベントの送信先）の IP アドレス。
MCCH アドレス	SkyIPCast から送信される放送制御メッセージの IP マルチキャストアドレス。デフォルトは「224.129.65.33」。
MCCH ポート	上記の制御用メッセージで使用されるポート番号。デフォルトは「5000」。
MTSV ID	SkyIPCast サーバー ID。0～255 を入力。デフォルトは「188」。
Wav file status	放送に先立ってチャイムを鳴らすか否か。「有効」、「無効」を選択する。デフォルトは「有効」（鳴らす）。
Speaker Volume Level	スピーカーの音量の大きさ。1～10 を入力可能（現在入力不可）。デフォルトは「5」。
チャンネル 0～19 number	受信する放送のチャンネル番号。チャンネル 0～19 に対して、1～65535 の値（チャンネル番号）を入力する。値「0」は未入力を意味する（放送を受信しない）。図 9.2.1 の例では、「1」、「2」、「11」、「12」の 4 つのチャンネルを受信する。

- 3 他のページの設定に進んでください。設定が必要なすべてのページの設定を終えたら、最後にメニューフレームの「設定を保存して再起動」をクリックしてください。

放送が衝突したときの動作

放送ストリームの配信に先だって、放送サーバーが送信する放送開始予告メッセージには、放送チャンネル番号だけでなく、そのチャンネルの放送の優先度が含まれています。RG601TX-SP に対する、放送の衝突が発生した場合、RG601TX-SP は最も優先度の高い放送をスピーカーに流します。


例えば、放送チャンネル 11 で優先度 5 の放送を受信中のとき、放送チャンネル 1 で優先度 1 の放送を受信すると、RG601TX-SP は割り込んできた、放送チャンネル 1 の放送をスピーカーに流します。

逆に、放送チャンネル 1 で優先度 1 の放送を受信のとき、放送チャンネル 11 で優先度 5 の放送を受けても無視します。

10 LAN 側設定（詳細設定）

「接続モード」が「Mode 1」のときは、WAN ポートと LAN ポートの間がブリッジとして動作します。

本製品の設定の便宜のために「Mode 1」でも、LAN ポートは IP アドレスや DHCP サーバ機能を持ちますが、LAN ポートのネットワークアドレスを持つパケットは WAN 側にフォワードされません。しかしながら、それ以外のネットワークアドレスを持つパケットは WAN、LAN ポート間で透過されます。

 「7.1 接続モード」(p.24)

- 1 メニューフレームの「詳細設定」の「LAN 側設定」をクリックしてください。
- 2 この画面の設定は、通常デフォルトでかまいません。必要であれば変更し、「設定」ボタンをクリックしてください。



図 10.0.1 LAN 側設定

表 10.0.1 LAN 側設定

IP アドレス設定	IP アドレス	本製品の LAN ポートの IP アドレス。 Mode 1 のとき、このネットワークアドレスを持つパケットは WAN 側にフォワードされない。 デフォルトは「192.168.1.1」。
	ネットマスク	本製品の LAN ポートのサブネットマスク。 デフォルトは「255.255.255.0」。
DHCP サーバ設定	DHCP サーバ	LAN ポートで DHCP サーバを有効化するかどうか。 デフォルトは有効にする（チェック有り）。
	リースタイム（時間）	クライアントに割り当てる IP アドレスのリース期間。 2～72（時間）が入力可能。デフォルトは 72 時間。
	先頭 IP アドレス	DHCP サーバによってリースする IP アドレスの範囲の先頭アドレス。デフォルトは「192.168.1.1」。
	割り当て数	DHCP サーバによってリースする IP アドレスの個数。 1～253が入力可能。デフォルトは「32」（192.168.1.11～192.168.1.42 の範囲）。

表 10.0.1 LAN 側設定 (続き)

ネームサーバ設定	プライマリ DNS	<p>「Proxy DNS」、「ユーザ指定」、「WAN 側指定」、「指定なし」を選択可能。デフォルトは「Proxy DNS」。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「Proxy DNS」(DNS リレー) を選択した場合、LAN 側のコンピューターに対し、プライマリー DNS サーバーアドレスとして自分自身の LAN 側 IP アドレスを提供する。LAN 側コンピューターからの DNS リクエストを受け取ると、本製品に設定されている DNS サーバーに転送する。 ・「ユーザ指定」を選択した場合、IP アドレスの入力欄に ISP から指定されたプライマリー DNS サーバーの IP アドレスを入力する。 ・「WAN 側指定」は「接続モード」が「Mode 2」のときのみ選択可能で、WAN1 (PPPoE 1) によって ISP から取得したプライマリー DNS サーバーの IP アドレスを使用する。 ・「指定なし」を選択した場合、LAN 側コンピューターに対してプライマリー DNS サーバーの IP アドレスを提供しない。
	セカンダリ DNS	<p>「Proxy DNS」、「ユーザ指定」、「WAN 側指定」、「指定なし」を選択可能。デフォルトは「Proxy DNS」。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「Proxy DNS」(DNS リレー) を選択した場合、LAN 側のコンピューターに対し、セカンダリー DNS サーバーアドレスとして自分自身の LAN 側 IP アドレスを提供する。LAN 側コンピューターからの DNS リクエストを受け取ると、本製品に設定されている DNS サーバーに転送する。 ・「ユーザ指定」を選択した場合、IP アドレスの入力欄に ISP から指定されたセカンダリー DNS サーバーの IP アドレスを入力する。 ・「WAN 側指定」は「接続モード」が「Mode 2」のときのみ選択可能で、WAN1 (PPPoE 1) によって ISP から取得したセカンダリー DNS サーバーの IP アドレスを使用する。 ・「指定なし」を選択した場合、LAN 側コンピューターに対してセカンダリー DNS サーバーの IP アドレスを提供しない。
LAN 側 RIP 設定 (未サポート)	LAN 側 RIP 方向別	<p>LAN 側のインターフェースで RIP を使用するかどうか。 「None」、「Both」、「Listen Only」、「Talk Only」を選択可能。デフォルトは「None」。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「None」は RIP を使用しない。 「Both」は経路情報の受信と送信を行う。 「Listen Only」は経路情報の受信のみを行う。 「Talk Only」は経路情報の送信のみを行う。
	LAN 側 RIP モード	<p>RIP プロトコルバージョンの指定。 「RIPv1」、「RIPv2」が選択可能。デフォルトは「RIPv1」。</p>

- 3 他のページの設定に進んでください。設定が必要なすべてのページの設定を終えたら、最後にメニューフレームの「設定を保存して再起動」をクリックしてください。

11 静的ルーティング設定（詳細設定）

「接続モード」が「Mode 2」の場合、デフォルトルートは WAN1（PPPoE1）に向いているので、下記の模式図のように、SIP サーバーが別のサブネットに置かれているようなときは、「静的ルーティング設定」で経路情報を登録する必要があります。

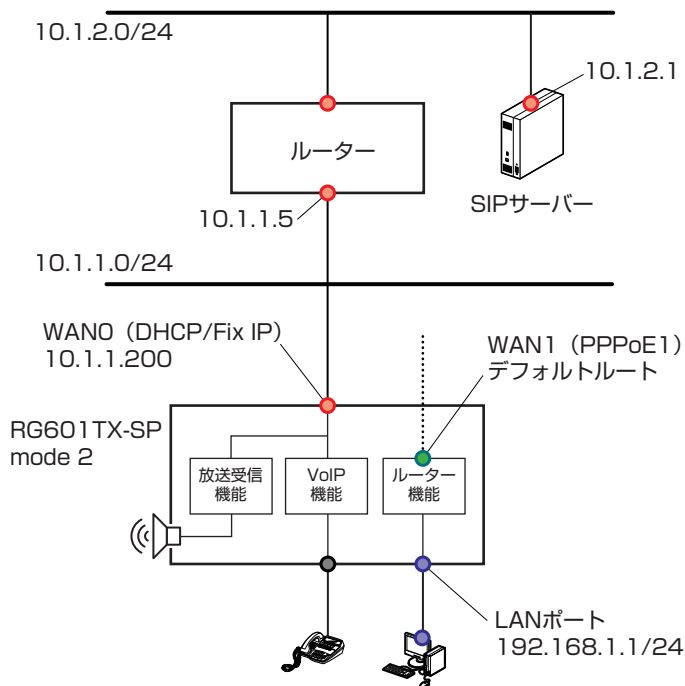


図 11.0.1 別のサブネットに置かれた SIP サーバー

- 1 メニューフレームの「詳細設定」の「静的ルーティング設定」をクリックしてください。
- 2 「エントリー番号」で希望の番号を選択してください。図 8.3.1 の例では「1」を選択しています。「適用」、「宛先 IP アドレス」、「ネットマスク」、「ゲートウェイ」、「インターフェース」、「メトリック」を入力してください。
- 3 「追加 / 編集」 ボタンをクリックしてください。

The screenshot shows the '静的ルーティング設定' (Static Routing Settings) screen. The 'エントリー番号' (Entry Number) is set to 1. The '適用' (Apply) checkbox is checked. The '宛先 IP アドレス' (Destination IP Address) is 10.1.2.0, the 'ネットマスク' (Netmask) is 255.255.255.0, and the 'ゲートウェイ' (Gateway) is 10.1.1.5. The 'インターフェース' (Interface) is set to WAN 0: DHCP/Fixed IP, and the 'メトリック' (Metric) is 2. The '追加/編集' (Add/Edit) button is highlighted.

図 11.0.2

表 11.0.1 静的ルーティング設定

エントリー番号	設定対象のエントリー番号を選択する。1～8 が選択可能。
適用	現在登録中のエントリーを使用するか否か。「使用する」にチェックを入れておくと、画面下側のルーティングテーブル左端の「適用」にチェックが入り、該当のエントリーが使用される。
宛先 IP アドレス	宛先ネットワークの IP アドレス。
ネットマスク	宛先ネットワークのネットマスク。
ゲートウェイ	宛先ネットワークへのパケットを転送するゲートウェイの IP アドレス。

表 11.0.1 静的ルーティング設定 (続き)

インターフェース	宛先ネットワークへのパケットを送信するインターフェース。 ・「接続モード」が「Mode 1」の場合、「WAN 0: DHCP/Fixed IP」のみが選択可能。 ・「Mode 2」の場合、「WAN 0: DHCP/Fixed IP」、「WAN 1: PPPoE 1」が選択可能。
メトリック	宛先ネットワークにパケットが到達するまでに経由するルーターの台数に 1 を加えた値。

4 ルーティングテーブルにエントリーが登録されます。

適用	エントリー番号	宛先IPアドレス	ネットマスク	ゲートウェイ	インタフェース	メトリック	削除
<input checked="" type="checkbox"/>	1	10.1.2.0	255.255.255.0	10.1.1.5	WAN 0: DHCP/Fixed IP	2	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	2	0.0.0.0	0.0.0.0	0.0.0.0	WAN 0: DHCP/Fixed IP	0	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	3	0.0.0.0	0.0.0.0	0.0.0.0	WAN 0: DHCP/Fixed IP	0	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	4	0.0.0.0	0.0.0.0	0.0.0.0	WAN 0: DHCP/Fixed IP	0	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	5	0.0.0.0	0.0.0.0	0.0.0.0	WAN 0: DHCP/Fixed IP	0	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	6	0.0.0.0	0.0.0.0	0.0.0.0	WAN 0: DHCP/Fixed IP	0	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	7	0.0.0.0	0.0.0.0	0.0.0.0	WAN 0: DHCP/Fixed IP	0	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	8	0.0.0.0	0.0.0.0	0.0.0.0	WAN 0: DHCP/Fixed IP	0	<input type="checkbox"/>

図 11.0.3

5 必要に応じて他のエントリー番号に対しても、手順 2～4 と同様に登録してください。

6 他のページの設定に進んでください。設定が必要なすべてのページの設定を終えたら、最後にメニューフレームの「設定を保存して再起動」をクリックしてください。

エントリー内容の変更

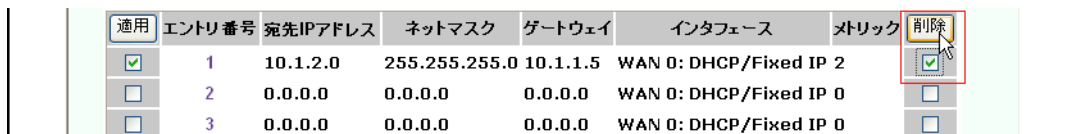
1 メニューフレームの「詳細設定」の「静的ルーティング設定」をクリックしてください。

2 「エントリー番号」プルダウンメニューで希望の番号を選択し、エントリーの内容を変更して、「追加 / 編集」ボタンをクリックしてください。

3 他のページの設定に進んでください。設定が必要なすべてのページの設定を終えたら、最後にメニューフレームの「設定を保存して再起動」をクリックしてください。

エントリー内容の削除

- 1 メニューフレームの「詳細設定」の「静的ルーティング設定」をクリックしてください。
- 2 削除したいエントリーの右のチェックボックスにチェックを入れ、「削除」ボタンをクリックしてください。



適用	エントリー番号	宛先IPアドレス	ネットマスク	ゲートウェイ	インタフェース	メトリック	削除
<input checked="" type="checkbox"/>	1	10.1.2.0	255.255.255.0	10.1.1.5	WAN 0: DHCP/Fixed IP 2		<input checked="" type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	2	0.0.0.0	0.0.0.0	0.0.0.0	WAN 0: DHCP/Fixed IP 0		<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	3	0.0.0.0	0.0.0.0	0.0.0.0	WAN 0: DHCP/Fixed IP 0		<input type="checkbox"/>

図 11.0.4 静的ルーティング設定のエントリー内容の削除

- 3 他のページの設定に進んでください。設定が必要なすべてのページの設定を終えたら、最後にメニューフレームの「設定を保存して再起動」をクリックしてください。

12 メンテナンス

12.1 管理者パスワードの変更

- 1 メニューフレームの「メンテナンス」の「管理者パスワードの設定」をクリックしてください。
- 2 「現在のパスワード」に現在のパスワードを入力してください。工場出荷時設定における初期パスワードは「friend」です。
次に「新しいパスワード」に新しいパスワードを入力してください。
最後に「確認のために再入力」に「新しいパスワード」と同じパスワードを入力して、「設定」ボタンをクリックしてください。

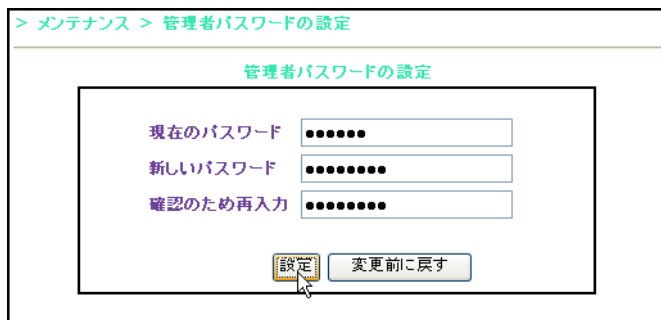


図 12.1.1 パスワード設定変更画面

- 3 ログインダイアログボックスが現れます。「ユーザー名」として「manager」、「パスワード」として手順 2 で設定した新しいパスワードを入力し、「OK」ボタンをクリックしてください。



図 12.1.2 新しいパスワードでログイン

- 4 他のページの設定に進んでください。設定が必要なすべてのページの設定を終えたら、最後にメニューフレームの「設定を保存して再起動」をクリックしてください。

12.2 時刻の設定

システムログの管理のために、本製品が正確な時刻を保持している必要があります。NTP サーバーを参照して時刻を同期することにより、本製品は常に正確な時刻を保持することができます。NTP サーバーと時刻を同期するための手順は、次の通りです。

- 1 NTP サーバーとの時刻の同期は、本製品と NTP サーバーの通信が可能である必要があります。
NTP サーバーの設定を行う前に、「基本設定」(WAN 0 ~ 2 の設定) や「詳細設定」の「静的ルーティング設定」を行い、「設定を保存して再起動」を実施しておきます。
- 2 メニューフレームの「メンテナンス」の「時刻の設定」をクリックしてください。
- 3 「時刻設定」のプルダウンメニューで「NTP 設定」を選択してください。
「NTP サーバ」の IP アドレスを入力してください。
「タイムゾーン」プルダウンメニューで「GMT+09:00 Tokyo」を選択してください。
「設定」ボタンをクリックしてください。



図 12.2.1 NTP サーバーの設定

表 12.2.1 時刻の設定

現在の設定時刻	時刻設定のプルダウンメニューが「手動設定」のとき、現在本製品が保持している日付と時刻が表示される。 プルダウンメニューが「NTP 設定」のとき、NTP サーバーから取得した時刻が表示される。NTP サーバーと通信ができない場合は、「NTP Server NOT Ready」が表示される。
時刻設定	時刻の設定方法を選択する。 ・プルダウンメニューで「手動設定」を選択すると、メニュー右のボタンは「自動設定」となる。「自動設定」ボタンをクリックすると、設定画面を表示しているコンピューター ^{*a} から時刻情報を取得して、「現在の設定時刻」と「タイムゾーン」が自動設定される。ただし、「手動設定」では本製品の電源オフや再起動によって、保持されていた日時と時刻は初期状態「0000 年 0 月 0 日 0 時 0 分 0 秒」に戻る。 ・プルダウンメニューで「NTP 設定」を選択すると、メニュー右のボタンは「再読み込み」となる。「再読み込み」ボタンをクリックすると、現在指定されている NTP サーバーに時刻を同期する。また、本製品が起動するときにも、現在指定されている NTP サーバーに時刻を同期する。
NTP サーバ	「再読み込み」ボタンをクリックしたときや、本製品が起動するときには時刻を同期する NTP サーバーを指定する。
タイムゾーン	日本の場合「GMT+09:00 Tokyo」を選択する。

*a 使用する Web ブラウザーは Internet Explorer Version 6.0 以上のこと

- 4 本製品の時刻が NTP サーバーに同期し、NTP サーバーに同期した時刻が表示されます。
本製品の時刻が NTP サーバーに同期しない場合は、時刻が同期するまで、「設定」ボタンまたは「再読み込み」ボタンを、数秒の間隔を開けながらクリックしてください。

> メンテナンス > 時刻の設定

時刻の設定

Current NTP Server Time 2005 年 7 月 13 日 13 時 44 分 5 秒

時刻設定

NTPサーバ 10 . 1 . 1 . 2

タイムゾーン GMT+09:00 Tokyo

図 12.2.2 NTP サーバーに同期している様子

- 5 他のページの設定に進んでください。設定が必要なすべてのページの設定を終えたら、最後にメニューフレームの「設定を保存して再起動」をクリックしてください。

12.3 設定内容のバックアップとリストア

本製品の設定内容を、コンピューターにバックアップしたり、バックアップした設定内容を本製品にリストアすることができます。

設定内容のバックアップ

- 1 メニューフレームの「メンテナンス」の「バックアップ」をクリックしてください。
- 2 「取得」ボタンをクリックしてください。

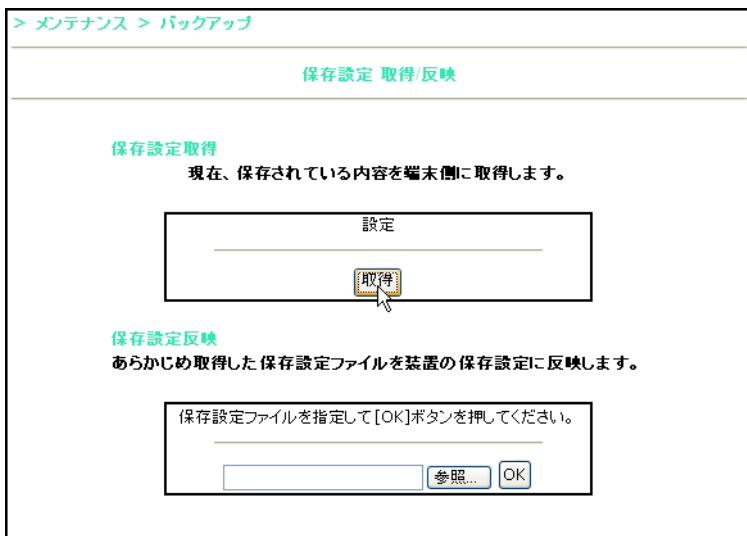


図 12.3.1

- 3 「保存」ボタンをクリックしてください。

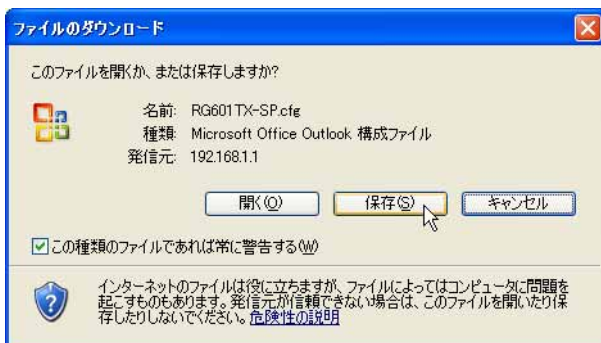


図 12.3.2

- 4 「ファイル名」を指定して、「保存」ボタンをクリックしてください。「ファイル名」は、デフォルトでは「RG601TX-SP.cfg」となります。

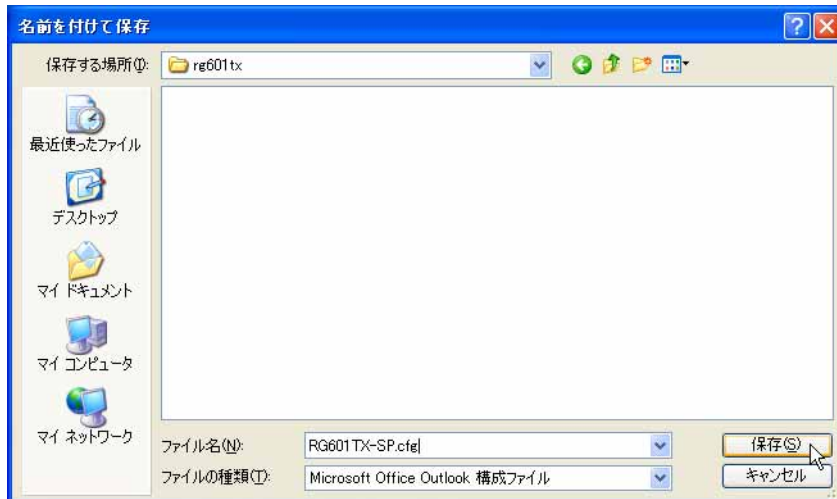


図 12.3.3

- 5 「閉じる」ボタンをクリックしてください。



図 12.3.4

設定内容のリストア

- 1 メニューフレームの「メンテナンス」の「バックアップ」をクリックしてください。
- 2 「参照」ボタンをクリックしてください。

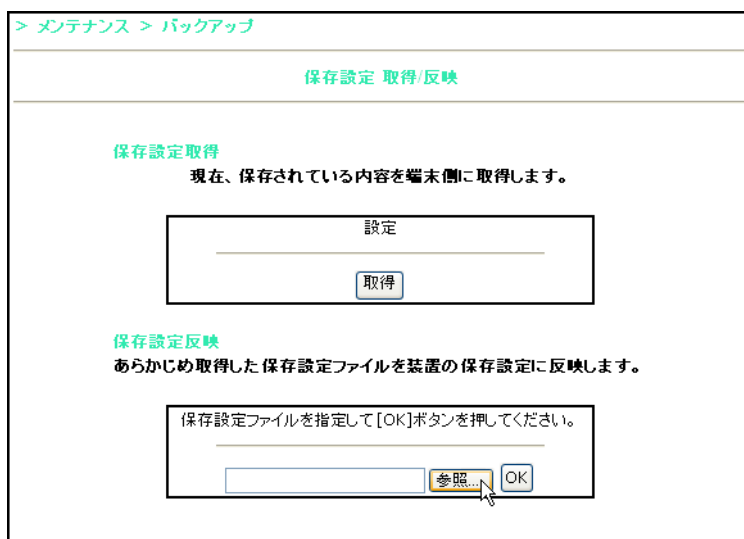


図 12.3.5

3 設定ファイルを選択して、「開く」ボタンをクリックしてください。

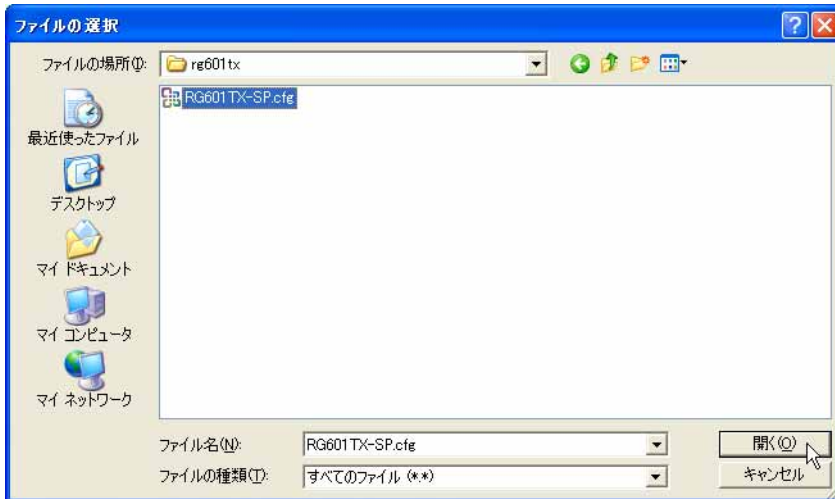


図 12.3.6

4 「参照」 ボタンの左のフィールドに設定ファイルがフルパスで表示されます。「OK」 ボタンをクリックしてください。

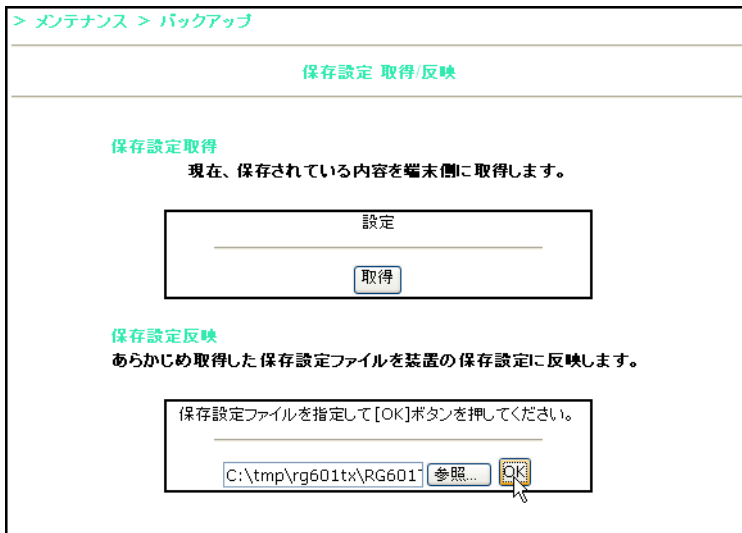


図 12.3.7

5 「OK」 ボタンをクリックしてください。



図 12.3.8

6 設定ファイルの送信が完了すると、本製品は自動的にレポートします。レポートにより、Web ブラウザーからのアクセスは切断されますので、必要であれば本製品に再度ログインしてください。

12.4 工場出荷時設定に戻す（設定値の初期化）

- 1 メニューフレームの「メンテナンス」の「設定値の初期化」をクリックしてください。
- 2 「工場出荷時設定に戻す」ボタンをクリックしてください。

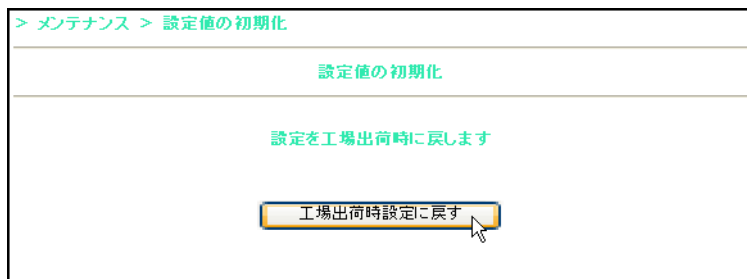


図 12.4.1

- 3 「OK」ボタンをクリックしてください。




図 12.4.2

- 4 工場出荷時設定に戻ると、本製品は自動的にリブートします。リブートにより、Web ブラウザーからのアクセスは切断されます。WAN 側からログインしていた場合、WAN 側からのアクセスが禁止されてしまうのでログインできなくなります。

12.5 ファームウェアの更新

現在のファームウェアバージョンの確認

現在インストールされているファームウェアのバージョンは、メニューフレームの「情報」の「現在の状態 (PPPoE)」または「現在の状態 (固定 IP/DHCP)」で確認できます。

-  「13.1 現在の状態 (PPPoE)」 (p.58)
「13.2 現在の状態 (固定 IP/DHCP)」 (p.58)

更新の手順

ファームウェアの更新は、下記の手順で行ってください。ファームウェアの更新では、現在の設定は失われません。

- 1 メニューフレームの「メンテナンス」の「ファームウェアの更新」をクリックしてください。
- 2 「参照」ボタンをクリックしてください。

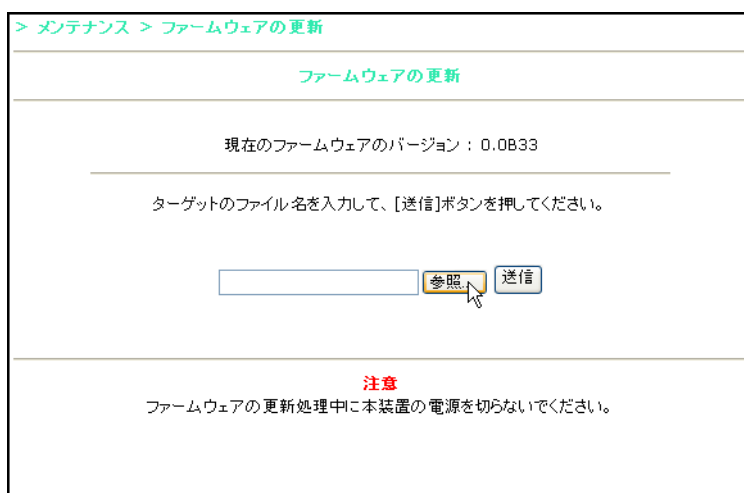


図 12.5.1

- 3 設定ファイルを選択して、「開く」ボタンをクリックしてください。

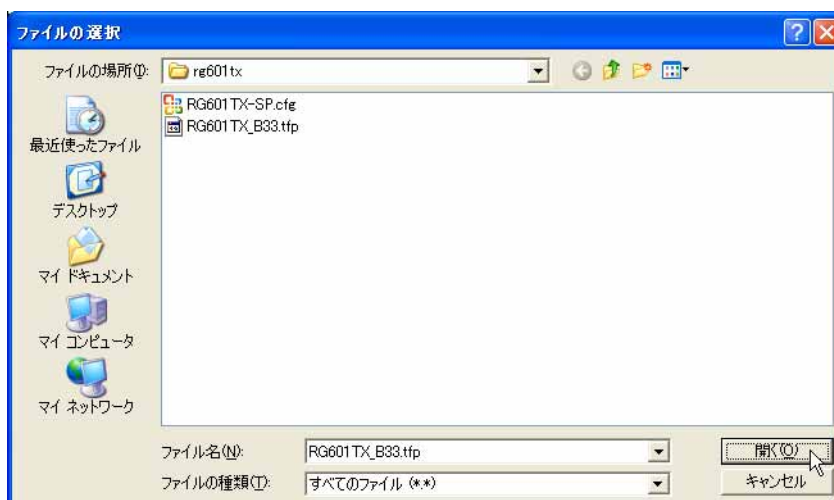


図 12.5.2

- 4 「参照」 ボタンの左のフィールドにファームウェアファイルがフルパスで表示されます。「送信」 ボタンをクリックしてください。

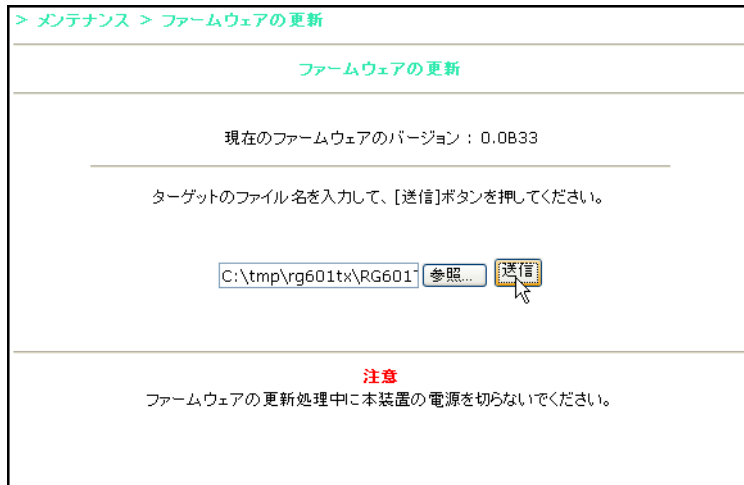


図 12.5.3

- 5 「OK」 ボタンをクリックしてください。



図 12.5.4

- 6 ファームウェアファイルの送信が完了すると、本製品は自動的にリポートします。リポートにより、Web ブラウザーからのアクセスは切断されますので、必要であれば本製品に再度ログインしてください。

12.6 システムログの表示

メニューフレームの「メンテナンス」の「システムログ」をクリックしてください。
「再読込」ボタンをクリックすると、最新の情報を再表示します。
「クリア」ボタンをクリックすると、ログの内容を破棄します。

No.	Day (yyyy/mm/dd)	Time (hh:mm:ss)	Event Discription
1	2005/7/13	14:22:27	CHAP establishment succeed.
2	2005/7/13	14:22:27	IPCP establishment succeed.
3	2005/7/13	14:22:31	SIP REGISTER succeed.
4	2005/7/13	14:24:57	VOIP send a call,0003.

図 12.6.1 システムログの表示

13 情報

このメニューにて各ネットワークの現在の状態を確認することができます。各設定画面には、「再読み込み」ボタンがついており、このボタンをクリックすることにより、最新の情報にリフレッシュされます。

13.1 現在の状態 (PPPoE)

メニューフレームの「情報」の「現在の状態 (PPPoE)」をクリックすると、WAN (PPPoE セッション) の状態 (接続状態、WAN 側の IP アドレス、ゲートウェイアドレス) を確認することができます。

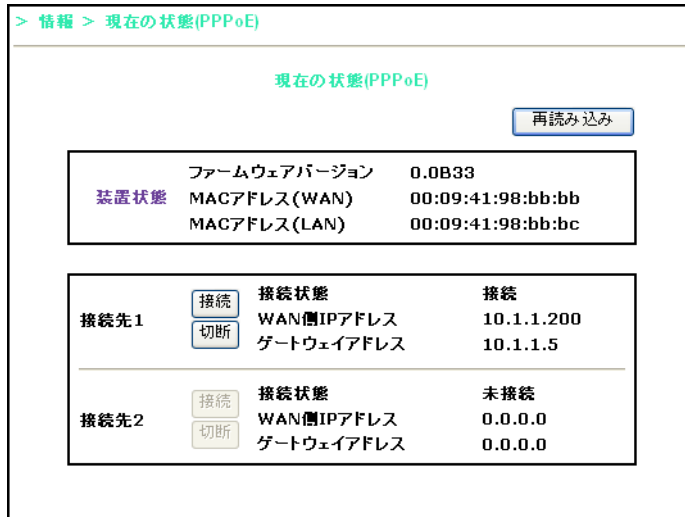


図 13.1.1 PPPoE 状態確認画面

「接続」ボタンをクリックすると、PPPoE セッションを接続します。「接続」ボタンをクリックしたにも関わらず、「接続状態」に「接続」が表示されない場合は、「再読み込み」ボタンをクリックしてみてください。

「切断」ボタンをクリックすると、現在接続中の PPPoE セッションを切断します。

13.2 現在の状態 (固定 IP/DHCP)

メニューフレームの「情報」の「現在の状態 (固定 IP/DHCP)」をクリックすると、WAN 0 の状態 (接続状態、WAN 側の IP アドレス、ゲートウェイアドレス) を確認することができます。

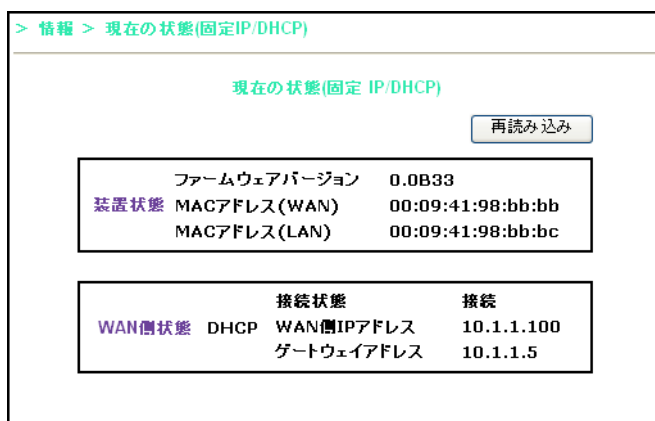


図 13.2.1 固定 IP/DHCP 確認画面

13.3 電話の状態と状態変更

メニューフレームの「情報」の「電話の状態と状態変更」をクリックすると、IP 電話サービスの状態を確認することができます。



図 13.3.1 電話サービス確認画面

表 13.3.1 時刻の設定

状態表示	サーバー登録状態	「サーバ未登録」または「サーバ登録」
	電話利用状態	「IP 電話利用不可」または「IP 電話利用可」
	通話状態	「未通話」または「通話」
	「IP 電話利用開始」ボタン	(未サポート)
	「IP 電話利用停止」ボタン	(未サポート)
IP 電話のポートとプロトコル	ポート / プロトコル	(例) 5060/UDP

13.4 ルーティングテーブルの状態

メニューフレームの「情報」の「ルーティングテーブルの状態」をクリックすると、本製品の経路情報を確認することができます。この内容は、メニューフレームの「詳細設定」の「静的ルーティング設定」の内容と同じです。

番号	宛先IPアドレス	ネットマスク	ゲートウェイ	インタフェース	メトリック
1	0.0.0.0	0.0.0.0	0.0.0.0	WAN 0: DHCP/Fixed IP	0
2	0.0.0.0	0.0.0.0	0.0.0.0	WAN 0: DHCP/Fixed IP	0
3	0.0.0.0	0.0.0.0	0.0.0.0	WAN 0: DHCP/Fixed IP	0
4	0.0.0.0	0.0.0.0	0.0.0.0	WAN 0: DHCP/Fixed IP	0
5	0.0.0.0	0.0.0.0	0.0.0.0	WAN 0: DHCP/Fixed IP	0
6	0.0.0.0	0.0.0.0	0.0.0.0	WAN 0: DHCP/Fixed IP	0
7	0.0.0.0	0.0.0.0	0.0.0.0	WAN 0: DHCP/Fixed IP	0
8	0.0.0.0	0.0.0.0	0.0.0.0	WAN 0: DHCP/Fixed IP	0

図 13.4.1 ルーティング情報確認画

14 トラブルシューティング

設定画面がうまく表示されません

- Web ブラウザーとして Windows の Internet Explorer Ver.6 以上を使用してください。
- 「A.2 JavaScript の有効化」(p.63) をご覧になり Internet Explorer の JavaScript 機能を有効にしてください (通常、初期設定では有効になっています)。

「メンテナンス」の「時刻の設定」で「時刻設定」が「手動設定」のとき、「自動設定」ボタンをクリックしても、「現在の設定時刻」や「タイムゾーン」が設定されません

- Web ブラウザーとして Windows の Internet Explorer Ver.6 以上を使用してください。
- 「A.2 JavaScript の有効化」(p.63) をご覧になり Internet Explorer の JavaScript 機能を有効にしてください (通常、初期設定では有効になっています)。

POWER LED は点灯するが、正しく動作しません

- 電源をオフにした後、すぐにオンにしていますか？電源をオフにしてから再度オンにする場合は、しばらく間をあけてください。

A 付録

A.1 コンピューターの設定 (Windows XP)

本製品を利用したインターネット接続ができるように、お使いのコンピューターのネットワーク (TCP/IP) 設定を行います。ネットワーク設定は接続するすべてのコンピューターで行う必要があります。また、あらかじめネットワークアダプターの設定がされている必要があります。

- 1 「コントロールパネル (クラシック表示)」の「ネットワーク接続」を開き、「ローカル エリア接続」をダブルクリックしてください。

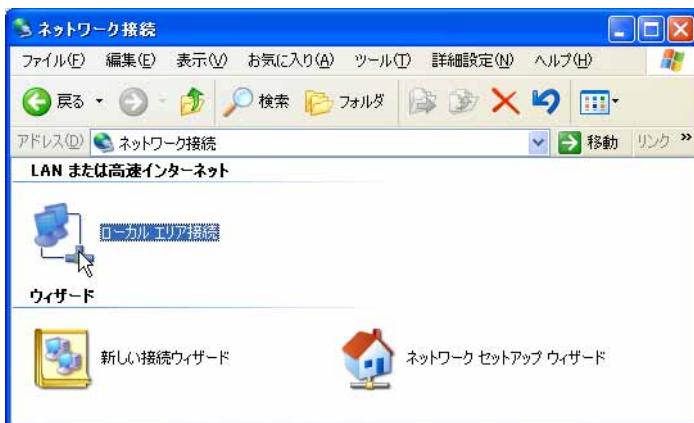


図 A.1.1 ネットワーク接続

- 2 「ローカル エリア接続の状態」ダイアログボックスで「プロパティ」をクリックしてください。



図 A.1.2 ローカルエリア接続の状態

- 3 「ローカル エリア接続のプロパティ」ダイアログボックスのリストの中から「インターネットプロトコル (TCP/IP)」を選択し、「プロパティ」をクリックしてください。



図 A.1.3 ローカルエリア接続のプロパティ

- 4 「インターネットプロトコル (TCP/IP) のプロパティ」ダイアログボックスで「IP アドレスを自動的に取得する」と「DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する」を選択し、「詳細設定」をクリックしてください。

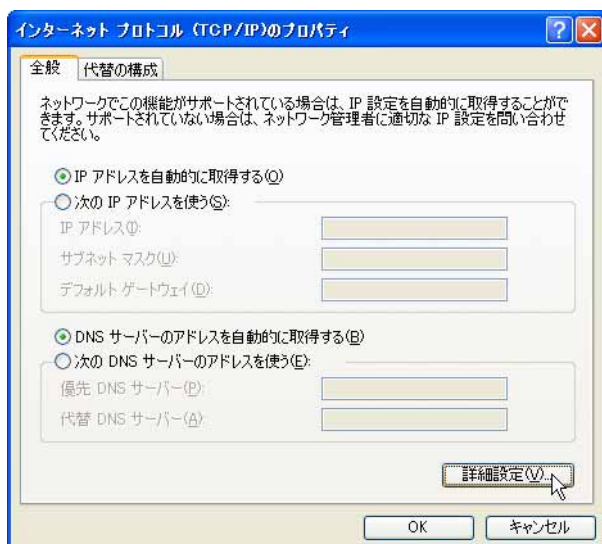


図 A.1.4 IP アドレスの設定

- 5 「TCP/IP 詳細設定」ダイアログボックスで「DNS」タブを選択し、下部の「この接続アドレスを DNS に登録する」のチェックを外してください。

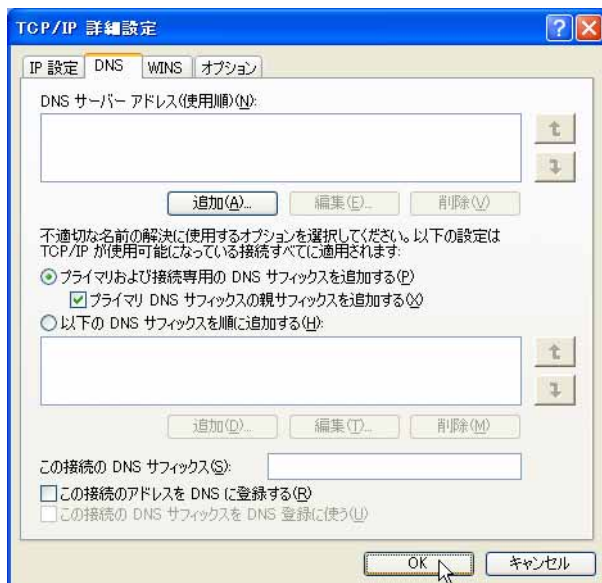


図 A.1.5 DNS の設定



ISP からドメイン名も指定されている場合「以下の DNS サフィックスを順に追加する」を選択し、「追加」ボタンをクリックして指定されたドメイン名を入力してください。

- 6 「OK」をクリックしてダイアログボックスを閉じ、コンピューターを再起動してください。

A.2 JavaScript の有効化

Internet Explorer (Ver.6) に以下の設定を施すと、本製品にアクセスするときのみ JavaScript を有効にすることができます（他のセキュリティ設定に影響を与えません）。

- 1 Internet Explorer のメニューから「ツール」→「インターネットオプション」をクリックしてください。
- 2 「セキュリティ」タブをクリックしてください。
「信頼済みサイト」を選択しておき、「サイト」ボタンをクリックしてください。



図 A.2.1 インターネットオプション

- 3 「http://192.168.1.1/」を入力し、「このゾーンのサイトにはすべてサーバーの確認 (http) を必要とする」のチェックを外してから、「追加」ボタンをクリックしてください。「Web サイト」欄に「http://192.168.1.1」が表示されたら、「OK」ボタンをクリックしてください。「信頼済みサイト」ダイアログボックスが閉じます。

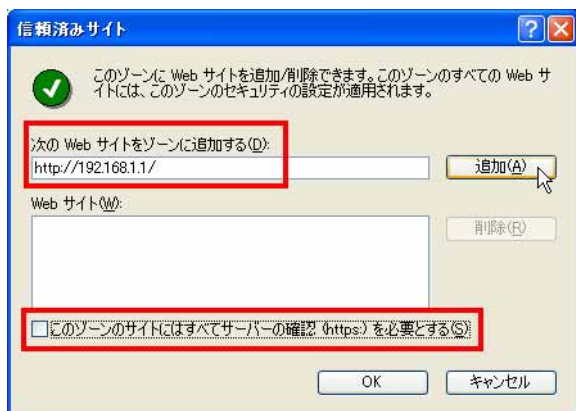


図 A.2.2 信頼済みサイトの登録

- 4 「インターネットオプション」ダイアログボックス (図 A.2.1) の「このゾーンのセキュリティレベル」が「カスタム」になっている場合は、「レベルのカスタマイズ」ボタンをクリックして、「アクティブスクリプト」が「有効にする」になっていることを確認してください。

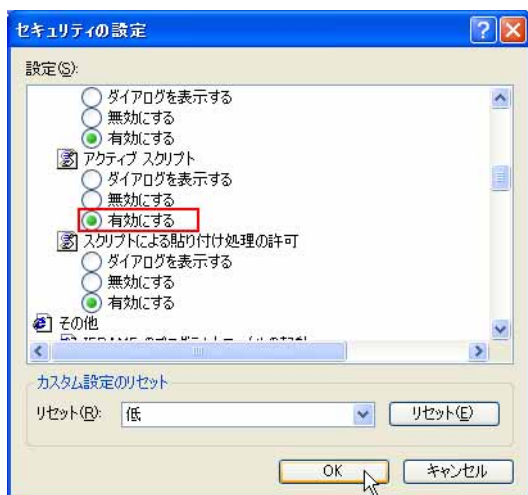


図 A.2.3 アクティブスクリプトは有効

- 5 「インターネットオプション」ダイアログボックスの「OK」ボタンをクリックしてください。「インターネットオプション」ダイアログボックスが閉じます。
- 6 Internet Explorer を再起動してください。本製品に対してアクセスするときのみ、JavaScript が有効になります。

ご注意

本書に関する著作権等の知的財産権は、アライドテレシス株式会社（弊社）の親会社であるアライドテレシスホールディングス株式会社が所有しています。

アライドテレシスホールディングス株式会社の同意を得ることなく、本書の全体または一部をコピーまたは転載しないでください。

弊社は、予告なく本書の全体または一部を修正・改訂することがあります。

また、弊社は改良のため製品の仕様を予告なく変更することがあります。

© 2005 アライドテレシスホールディングス株式会社

商標について

CentreCOM はアライドテレシスホールディングス株式会社の登録商標です。

「キャッチホン」は、日本電信電話株式会社の登録商標です。

Windows は、米国 Microsoft Corporation の登録商標です。

その他、この文書に掲載しているソフトウェア、周辺機器、サービスの名称などは、各メーカーの商標または登録商標です。

電波障害自主規制について


この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書にしたがって正しい取り扱いをしてください。

廃棄方法について

本製品を廃棄する場合は、法令・条例などに従って処理してください。詳しくは、各地方自治体へお問い合わせいただきますようお願いいたします。

日本国外での使用について

弊社製品を日本国外へ持ち出されるお客様は、下記窓口へご相談ください。

 0120-860442

月～金（祝・祭日を除く）9:00 ～ 17:30

マニュアルバージョン

2007年3月 Rev.B

2005年7月 Rev.A 初版（B34）

